

平成30年 第1回定例会

平成30年 2月26日 1日間

南信州広域連合議会会議録

南信州広域連合事務局

平成30年
第1回定例会

平成30年南信州広域連合議会第1回定例会

会 期

平成30年 2月26日（月） 1日間

日 程 表

月日	曜日	日 程	頁
2.26	月	開 会 平成30年2月26日（月曜日） 午前10時00分	
		第 1 会議成立宣言	8
		第 2 会期の決定	
		第 3 議案説明者出席要請報告	9
		第 4 会議録署名議員指名	
		第 5 広域連合長あいさつ	
		第 6 監査報告	14
		第 7 一般質問	16
		第 8 議案審議（8件）即決	42
		議案第1号から第8号まで 説明、質疑、討論及び採決	
		閉 会	

付議議案及び議決結果一覧表

《条例案件》

議案番号	議案名	上程月日	議決月日	結果	議決頁
議案第1号	南信州広域連合資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定について	2月26日	2月26日	可決	42

《予算案件》

議案番号	議案名	上程月日	議決月日	結果	議決頁
議案第2号	平成29年度南信州広域連合一般会計補正予算(第4号)案	2月26日	2月26日	可決	43
議案第3号	平成29年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計補正予算(第1号)案	2月26日	2月26日	可決	46
議案第4号	平成29年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算(第1号)案	2月26日	2月26日	可決	47
議案第5号	平成30年度南信州広域連合一般会計予算(案)	2月26日	2月26日	可決	48
議案第6号	平成30年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計予算(案)	2月26日	2月26日	可決	62
議案第7号	平成30年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計予算(案)	2月26日	2月26日	可決	64
議案第8号	平成30年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計予算(案)	2月26日	2月26日	可決	68

一 般 質 問 の 質 問 事 項

順 番	質 問 者	質 問 事 項	頁
1	吉 川 秋 利	<p>1. 産業振興と人材育成について</p> <p>(1) 航空機システム共同研究講座について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア ハード面、ソフト面での進捗状況について</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 研究講座における課題、問題点は</p> <p style="padding-left: 2em;">ウ 次年度への準備状況について</p> <p>(2) デザイン系大学院大学について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 設立に向けての方向性について</p> <p style="padding-left: 2em;">イ デザイン系大学院大学設立準備会（室）について</p> <p>2. 屋内体育施設について</p> <p style="padding-left: 2em;">事業の進め方について</p> <p>(1) 何をつくろうとするか</p> <p>(2) リニア長野県駅を玄関として位置付けての考え方</p> <p>(3) 国体誘致について</p> <p>3. マーケティングの視点による持続可能な地域づくりプロジェクトについて</p> <p>(1) 一村一企業ダーチャ運動について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア ダーチャの概要について</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 現在の進捗状況について</p> <p>(2) 自信と誇りの持てる農業の再構築について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 具体的なシステムについて</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 農産物の出荷について</p> <p style="padding-left: 2em;">ウ 広域連合としての支援について</p>	16
2	新 井 信 一 郎	<p>リニア時代を見据えた取り組みについて</p> <p>(1) 産業振興と人材育成の拠点整備について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 航空宇宙産業以外の農商工業等に対する考えは</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 「知の拠点」、「産業振興と人材育成の拠点」と名称が変わってきたが、郡市民に身近なエリアとするために愛称募集をしてみてもどうか</p>	30

順番	質問者	質問事項	頁
2	新井 信一郎	<p>(2) 教育行政について</p> <p>ア 地域人教育について</p> <p>イ 教育におけるICTの活用状況について</p> <p>(3) 広域連合の行政運営について</p> <p>ア 長野県から「リニアバレー構想」について「誰も主体的に動いていない」とマスコミ報道されていたが、それに対する見解は</p> <p>イ リニア中央新幹線計画における国家戦略との連携は</p>	30

平成30年 南信州広域連合議会 第1回定例会

平成30年南信州広域連合議会第1回定例会会議録

平成30年2月26日（月曜日） 10時00分 開 会

開 会

日 程

第 1 会議成立宣言

第 2 会期の決定

第 3 議案説明者出席要請報告

第 4 会議録署名議員指名

第 5 広域連合長あいさつ

第 6 監査報告

第 7 一般質問

(1) 吉川 秋利議員 (2) 新井 信一郎議員

第 8 議案審議（8件）即決

議案第1号から議案第8号まで

説明、質疑、討論及び採決

閉 会

出席議員 31名

(別表のとおり)

欠席議員 2名

(別表のとおり)

地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者の職・氏名

(別表のとおり)

本会議に職務のため出席した者の職・氏名

(別表のとおり)

○議長（清水 勇君） おはようございます。

ただいまから、平成 30 年南信州広域連合議会第 1 回定例会を開会いたします。

日程第 1 会議成立宣言

○議長（清水 勇君） 現在の出席議員は 31 名であります。よって、本日の会議は成立いたしております。

本日の会議に、栗生勝由議員、坂本勇治議員から都合のため欠席する旨の申し出がありましたのでご報告いたしておきます。

これより本日の会議を開きます。

日程第 2 会期の決定

○議長（清水 勇君） はじめに会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期及び日程につきましては、去る 2 月 6 日に議会運営委員会を開催いたし協議を願っていますので、その結果についてご報告を願うことにいたします。

議会運営委員会委員長、永井一英君。

○議会運営委員長（永井一英君） おはようございます。

2 月 6 日に開催をいたしました議会運営委員会の協議の結果をご報告申し上げます。

本定例会の会期は本日 1 日とし、その日程につきましてはお手元に配布してあります日程表によることといたします。

本日、上程される案件は、条例案件 1 件、予算案件 7 件であり、即決議案といたしました。

以上であります。

○議長（清水 勇君） ただいまの報告について、ご発言はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） お諮りいたします。

本定例会の会期につきましては、議会運営委員長の報告のとおり本日 2 月 26 日の 1 日とし、お手元に配布いたしてあります日程表のとおり進めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、会期は、本日2月26日の1日と決定いたしました。

日程第3 議案説明者出席要請報告

○議長（清水 勇君） 次の日程に進みます。

本日の議会における議案説明者として、地方自治法第121条の規定により牧野広域連合長ほか関係者の出席を要請いたしました。

日程第4 会議録署名議員氏名

○議長（清水 勇君） 次の日程に進みます。

会議録署名議員に高坂和男君、熊谷義文君を指名いたします。

日程第5 広域連合長あいさつ

○議長（清水 勇君） 次の日程に進みます。

ここで広域連合長のあいさつを願うことにいたします。

牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） おはようございます。

一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

本日ここに平成30年南信州広域連合議会第1回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては何かとご多忙にも関わらずご出席をいただき広域連合の条例改正及び平成30年度予算案などの重要案件につきましてご審議いただきますことに対し深く感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

昨日、平昌オリンピックが閉幕いたしました。日本人選手の大活躍に多くの皆さんが胸を熱くされたと思います。

とりわけ長野県出身の小平選手、菊池選手、渡部選手のメダル獲得は同じ長野県民として誇らしく思ったところでございます。

3月9日に開幕いたします平昌パラリンピックにおきましては、男子パラアイスホッケーに当地域出身の吉川選手、熊谷選手が出場します。

南信州広域連合といたしましても今月14日に壮行会を行ったところでございますが、選手の大いなる活躍を地域の皆さんとともに期待したいと思います。

さて、去る1月9日に告示されました喬木村長選挙におきまして、市瀬直史さん

が再選を、同じく9日に告示されました高森町長選挙におきましては、新たに壬生照玄さんが当選され、続いて、1月23日に告示されました阿智村長選におきまして、熊谷秀樹さんが再選を果たされたところでございます。

お3方には地元行政はもちろんでありますが、広域連合におきましてもリニア時代を見据え持続可能な地域づくりのためにご尽力を賜りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

そして、長年にわたりまして広域行政の推進にご尽力をいただきました高森町の熊谷元尋氏のご勇退をされました。熊谷前町長がこれまで果たしてこられました役割に改めて心から感謝を申し上げますとともに、立場が変わりましても地域の発展のために引き続きお力添えをお願い申し上げます。

次に、当面する課題とその対応につきまして申し上げます。

はじめに、リニア時代を見据えた地域づくりに関する検討状況について申し上げます。

広域連合では、基本構想基本計画において掲げられたリニアの開業に向けて望まれるインフラの整備に関する検討を行ってまいりました。

そのうち屋内体育施設及びコンベンション施設につきましては、昨年3月に阿部県知事に対し、「リニア時代を見据えたコンベンションセンターと県の屋内体育施設の整備に関し、当地域と一緒に必要な検討を行っていただきたい」という要望書を提出し、他地域の状況等調査を進めてまいりました。

また、昨年12月には、飯田市及び下伊那郡の体育協会より大型複合アリーナ（体育館）の実現を求める要望書が郡市民2万5,000名を超える署名とともに提出されたところであります。

これを受けまして、広域連合といたしまして具体的な検討を行う前提といたしまして、この地域にどのような候補地があるのかを調査するために、情報について3月末をめどに各市町村からお寄せいただくお願いをしたところでございます。

屋内体育施設、コンベンション施設ともに提供いただいた情報を整理し、その内容を踏まえて具体的な検討に入ってまいりたいと考えております。

次に、産業振興と人材育成の拠点整備事業について申し上げます。

旧飯田工業高校施設の整備事業につきましては、A棟（旧体育館棟）を改修し公的試験場機能及びホール整備を行う第2期工事が順調に進んでおり、3月中旬に竣工する見込みとなっております。

竣工後、EMCセンターは3月末、工業技術センターは5月のオープンを目指して準備を進めております。

また、昨年11月に第3期工事として着手いたしましたB棟（旧機械科棟）の改修は9月の完成を目指しております。これに併せまして、特別教室棟を食品産業の研究開発施設として改修するための工事を地方創生拠点整備交付金を活用し行うこととしております。

来年度、第4期工事として外構工事を実施する予定であり、順調に進めば来年早々には産業振興と人材育成の拠点がグランドオープンする運びとなる予定であります。

次に、リニア中央新幹線建設工事について申し上げます。

昨年12月15日に、県道松川インター大鹿線、四徳渡トンネル掘削現場付近におきまして、リニア中央新幹線関連工事に起因する土砂崩落がありました。地域にとっては生命線とも言える道路であり、また、住民の皆さんに大きな不安を与え、大変遺憾な重大な事故と認識しているところであり、このような重大な事故を二度と起こさないように再発防止を求めるところでございます。

本体工事においては、2月15日に、飯田市内の中央アルプストンネル松川工区において準備工事が着手され、南アルプストンネル長野工区、伊那山地トンネル坂島工区に次いで3番目の工事着手となりました。

今後、各地において工事が本格化していく中、JR東海には工事の安全対策を確実に実施してもらうよう要望してまいります。

続きまして、三遠南信自動車道に関連して申し上げます。

飯喬道路2工区につきましては、龍江ICから飯田上久堅・喬木富田IC間の開通日も3月10日に決まり、平成31年度の2工区の全線開通にさらに期待が高まっているところであります。

また、国の平成29年度補正予算が成立し、三遠南信自動車道路関係では、長野、静岡、愛知3県全体で41.8億円、うち長野県内の飯喬道路に21.2億円、青崩峠道路に2億円と大きな予算を確保いただきました。

広域連合といたしましては、これからも三遠南信自動車道の早期全線開通に向けてより一層の事業促進が図られますよう引き続き関係する県や市町村共に関係機関へ要望活動を行ってまいり所存でございます。

次に、飯田環境センターの事業について申し上げます。

平成22年度から取り組んでまいりました稲葉クリーンセンターの整備につつま

しては、ご案内のとおり昨年12月1日に竣工式を執り行い、正式に稼働を開始いたしました。

施設が無事整備できましたのも、関係される多くの皆様方のご理解、ご協力、ご尽力の賜と改めて御礼を申し上げる次第であります。

今後20年間、稲葉クリーンセンターでごみの広域処理を実施してまいります。施設の運転にあたりましては安心・安全を第一に地元地域と結んだ協定を遵守し誠心誠意取り組む所存であります。

議員各位におかれましては、今後ともご理解ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、稲葉クリーンセンターの運転状況につきましては、後ほど全員協議会の中で担当より説明いたさせますのでよろしくお願いいたします。

一方、平成14年12月より稼働してまいりました桐林クリーンセンターであります。稲葉クリーンセンターが竣工したことによりまして、昨年その役目を終了いたしました。

旧桐林クリーンセンターの時代から数えますと、実に30年間という長きにわたり地元竜丘地区、伊賀良地区の皆様方をはじめ多くの皆様方のご理解ご協力のもと、無事施設を運転してこられましたことに改めて感謝を申し上げる次第であります。

施設は閉所いたしました。今後とも施設の臭気対策や敷地内の環境美化など万全を期してまいりたいと考えております。

また、桐林クリーンセンターの後利用につきましては、現在検討を進めておりますが、早期にその方向性を見出してまいりたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

議員各位におかれましては、引き続き特段のご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

次に、「在宅医療と介護の連携推進事業」について申し上げます。

これまで、南信州在宅医療・介護連携推進協議会において検討を重ねてまいりました。在宅医療と介護の連携推進事業の具体的な取り組みにつきまして、地域住民の皆さん方にも知っていただくため、2月12日に「地域包括ケアシステムを考える住民フォーラム」を飯田文化会館で開催いたしました。

あいにくの雪でありましたが、350名の皆さんにご参加をいただき、広く医療と介護の連携についての取り組みを知っていただく良い機会になりました。また、

今回参加された方々から寄せられました多くのご意見を今後の取り組みに活かしてまいりたいと考えております。

次に、「看護師等確保対策」について申し上げます。

今年度より創設いたしました、「看護師等確保対策修学資金貸与制度」でございますが、現在10名に修学資金を貸与いたしております。

貸与者につきましては、飯田医師会及び看護協会と協力いたしまして、4月28日に行われます飯伊地区医療職就職ガイダンスにおきまして、現在の状況の確認と就職情報の提供を予定しており、さらに飯伊地区の病院を中心にセミナーやインターンシップ等による学生、修学生のフォローアップを実施し資格取得のための育成の協力体制を強化してまいります。

また、1月には飯田医師会より修学資金の支援をいただくことが決定されました。詳細は本日の議案にて改めて担当よりご説明させていただきますが、今年度の実績を反映しながら3月より来年度の修学生の募集を行い、より優秀な看護師等の確保・育成に努めてまいり所存であります。

次に、広域消防について申し上げます。

今年度、更新をいたします龍江分署の高規格救急自動車につきましては順調に車両の整備が進んでおりまして、3月上旬から運用を開始する予定であります。引き続き、救急業務における迅速かつ効果的な運用並びに的確な現場指揮活動の実施に心がけてまいり所存であります。

昨年の火災発生状況につきましては、73件と前年に対しまして3件少ない状況でありました。また、建物火災における犠牲者がなく、これは平成15年以来初めてのことであり、関係機関のご協力と住民の皆様方の防火に対する心がけに感謝を申し上げますところであります。

この3月1日から3月7日まで春の火災予防運動を実施いたしますとともに、併せて3月1日から3月末日まで消防団等のご協力をいただき「たき火火災ゼロ運動」を展開し広報活動などを通じて火災発生の抑止に努めてまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、昨年の消防統計につきましては、後の全員協議会におきまして担当から報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて、本日提案いたします案件は、条例案件1件、予算案件7件の計8件でございます。

議案の概要について申し上げます。

議案第1号、南信州広域連合資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定につきましては、南信州広域連合看護師等確保対策修学資金に必要な資金を確保するための基金を設置する条例を制定するものでございます。

議案第2号から第4号は、平成29年度一般会計、同広域振興基金特別会計及び同飯田広域消防特別会計の補正予算でございます。

一般会計につきましては、看護師等確保対策事業に対し飯田医師会より寄附いただく120万円及び貸与に必要な財源を確保するために設置する基金に積み立てるほか、産業振興と人材育成の拠点整備事業におきまして、特別教室棟の取得及び地方創生拠点整備交付金を活用して行う改修工事、工業技術センター、EMCセンターの機器等の移転費用などを、広域振興基金特別会計は一般会計への操出金の計上を、広域消防特別会計は決算見込みに伴う人件費等の補正をお願いするものでございます。

議案第5号から第8号は、平成30年度南信州広域連合一般会計、同広域振興基金特別会計、同飯田広域消防特別会計、同稲葉クリーンセンター特別会計の4つの会計の当初予算案でございます。4会計の総額は、35億5千万円余で、前年度に比べ9億1千8百万余の大幅な減額となっておりますが、これは産業振興と人材育成の拠点整備事業がピークを過ぎ減少いたしますこと、稲葉クリーンセンターの整備事業が終了すると共にごみ処理費が減少することなどに伴うものであります。

詳細につきましては、この後の議案審議の際に担当から説明をいたさせますのでよろしくご決定を賜りますようお願い申し上げます。

以上申し上げます、議会開会にあたりましての私からのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

日程第6 監査報告

○議長（清水 勇君） これより監査報告に入ります。

監査委員から、平成29年度監査の結果について報告を願うことにいたします。

代表監査委員、加藤良一君。

○監査委員（加藤良一君） 監査の結果について報告を申し上げます。

今議会に提出しました監査報告書は、地方自治法第292条において準用する同法第199条第1項、第2項及び第4項の既定によります定期監査で、平成29年

10月20日から平成30年2月2日まで実施したものでございます。

監査の対象は、お手元に配布してあります監査報告書1ページに記載のとおり、一般会計、稲葉クリーンセンター特別会計、振興基金特別会計及び飯田広域消防特別会計です。

監査にあたりましては、あらかじめ指定して提出を求めた予算の執行状況及びその他関係資料に基づき所管の長及び関係職員から説明を聴取するとともに、その事務が関係法令に基づき適正かつ効率的に執行されているかどうか主眼に置き実施しました。

また、現金・郵券等の取扱及び物品等の管理状況について、予備監査として実地検査を行いました。

それでは監査の結果を申し上げます。

南信州広域連合は、リニアや三遠南信を見据えた地域づくりから住民の利便性や安心・安全の確保まで、多岐にわたり多種多様化する広域的な課題を有しています。その解決に向けて、事務局、環境センター及び広域消防がそれぞれの立場で取り組み、その予算の執行や物品等の管理をおおむね適正に処理されていることを認めました。

また、平成29年度は大事業である稲葉クリーンセンターが竣工しましたが、その事業についても適切に運営されていることを認めました。

今後はリニアを見据えたインフラ整備など大規模な事業を想定されます。広域連合全体として中長期的な財政見通しを作成した上で、多種多様化する広域的な課題に対応できるよう後期基本計画の策定に注力されることを望みます。

なお、改善または改善の検討を要する事項がありましたので報告を申し上げます。

2ページをご覧ください。

監査の結果の区分は、「指摘事項」、「指導事項」、「検討要望事項」の3つとなっております。それぞれの内容につきましては枠内の説明をご確認ください。

今回、監査の結果の区分における「指摘事項」及び「指導事項」はございませんでしたが、「検討要望事項」が3件ございました。内容は2ページの中段から「検討要望事項」をご確認ください。

なお、3ページに今回の「検討要望事項」に対する措置状況として回答があったものを記載しておりますのでご確認ください。

監査の結果及び措置の報告は以上のとおりでございます。詳細につきましては監

査報告書をご高覧ください。

簡単でございますが、監査報告といたします。

○議長（清水 勇君） ただいまの監査報告について、ご発言はございませんか。

（発言者なし）

○議長（清水 勇君） ご発言がございませんので、次の日程に進みます。

日程第7 一般質問

○議長（清水 勇君） これより一般質問を行います。

一般質問は、2名の通告がありました。

一般質問につきましては一問一答方式とし、質問・答弁を併せて40分以内とするようになっておりますので、質問・答弁とも簡潔明瞭に願い、会議の進行にご協力くださるようお願いいたします。

また、質問される方は、所定の一般質問席でお願いいたします。

それでは通告順に発言を求めます。

◇通告1番 吉川 秋利

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） おはようございます。飯田市の吉川秋利です。

今回は、3項目について通告をしましたが、時間に厳しいものがありそうなので早速質問に入ります。

「産業振興と人材育成について」、航空機システム共同研究講座については、昨年の4月に開講以来1年弱が経過しました。

この中で、ハード面、ソフト面での進捗状況についてお聞きをします。

この研究講座、3名でスタートしましたが、課題、問題点はあるのか、どのように把握しているのかお聞きをします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） それでは私のほうから答弁をさせていただきます。

ただいまご質問がありましたハードの整備につきましては、平成28年度に実施いたしました第2期工事、C棟（いわゆる旧電気科棟）改修工事により信州大学の航空機システム共同研究講座を実施するための施設を整備してきたところでございます。

講座の目的は、航空機システム技術を深く理解し、国際的かつ多角的な視野から革新的な航空機システムに関する技術を開拓する基礎力や技術者間の問題を解決する応用力を有し、産業界で即戦力となり得る技術者を養成することと伺っております。

カリキュラムにおきましては、多くは企業と連携した航空機システムの開発、JAXA等の研究機関と連携した先端研究、実技…（聞き取れず）…を通じた教育等の分野に取り組んでいるところであります。

今年度は、工学部から2名の学生、社会人1名、計3名が本講座で学んでいるところであります。

この研究講座における課題、問題点というご質問でございますが、講座といたしましては4年間で終了することになりますが、その間に実績を積み重ねることで信州大学としては、将来の南信州キャンパスにつながるよう…（聞き取れず）…していきたいということですので、これを地域をあげて信州大学にも広域連合として働きかけをしていきたいと考えているところであります。

講座の運営を支援するコンソーシアムの構成につきましては、長野県、南信州広域連合、南信州産業センターと9団体がございます。コンソーシアムから本講座運営の負担金といたしまして、年額2,600万円が支出されているところであります。また、学生支援策といたしまして、学費給付金の支給や夜間給付金や引越費の補助等も行っているところであります。

学生支援に対する財源は、企業版ふるさと納税を活用しているところであります。ふるさと納税は14市町村すべてで取り組みを進めており、現在までに18の企業から180万円の寄附をいただいているところでございます。…（聞き取れず）…

課題ということであると、こうしたこの研究講座をこれからどういうふうにやっていくかということになるかと思えます。しっかりと実績を残し、大学院の1学科として位置づけるよう、今後も…（聞き取れず）…必要があると思えます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） 丁寧に説明をしていただきました。

この研究講座と並行して社会人講座というんですかね、10数人くらいで週1回、毎週開催されるというようではありますが、この講座の目的、講座の状況、今後の方向性について、コンソーシアムとの関連も含めて概要をお聞きします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 社会人講座の目的ということでございますが、基本的には、この信州大学の今のシステム装備品に関します共同研究講座は、そういった信州大学の学部生とともに社会人も対象にしたものでございます。来年度につきましても、そういったこの社会人の皆さん方にも門戸を開く形でこの応募を受け付けてきたところでございます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） それでですねえ、次年度について、もう3月になりますので準備状況というか応募状況について、まあ「9人くらい」とかお聞きしておるんですが、その見込みについてお聞きをします。

で、重ねて、何人まで対応ができるのか、それから入学試験もするのかどうか、考えているのかどうか、そこら辺のところをお願いします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 来年度の応募状況につきましては、信州大学の学部生が5名応募してきているというようにお聞きをしております。

大体いま1年生、2年生合わせて大体10名くらいというような形で考えられているようでありまして、そういう意味では今年の3名と合わせて、来年度から8名の皆さん方が産業振興と人材育成の拠点で学ばれるということになるかと思えます。

その選考方法につきましては、先ほど申し上げたとおり社会人の方も応募ができるというようにお聞きをしておりますが、聞いている限りにおきましては学部生の5名ということであるとのことのようにあります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30場（吉川秋利君） 次の質問に移ります。

デザイン系大学院大学について、連合長、南信州新聞の新春座談会でデザイン系の学科ということと言及されておりましたが、デザイン系大学院大学の設立について具体的にどのような考えを持っておられるのかお聞きをします。

デザイン系といっても幅広い分野だと思います。企業系のデザインから建物もあります。いわゆる商品に関するデザインもありますので、私も2016年の2月にリニア中央新幹線の天竜川を渡る橋梁を世界に誇れる物にしたいと、例えば「ミラノ万博の建設、建物をデザインした北河原さんのような著名なデザイナーにお願いしたらどうだ」といった提案をしたけれども、ランドスケープデザインといった大

きなものや小物の商品デザインなど幅広いデザインをどのように扱っていくのが良いと考えているのかお聞きをします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 南信州広域連合の基本構想・基本計画におきまして、リニア中央新幹線開業に向け望まれるインフラにつきまして、高等教育機関の実現を目指すということが謳われているところでございます。

これまでは、航空機産業の振興に対する国県の支援もいただきながら、先ほど申し上げました信州大学航空機システム共同研究講座の開設を優先的に取り組ませていただいております。

この間も地域産業の競争力を高めイノベーションを起こしていくために、デザイン分野の大学院大学をこの地につくっていければというそういった思いは私自身も変わらずに持ち続けているところでございます。

ご承知のとおり、このデザイン系の大学院大学の実現に向けましては、これまで平成26年7月に吉川議員にもご覧いただいておりますとおり、賛同者によります「設置を考える会」、これが発足してワーキンググループでの会議をさせていただいております。

この会が昨年10月25日に再開されまして、今後、設立に向けて関係機関等の協力を得る中で具体的な取り組みを開始し、設立に向けて信州大学航空機システム共同研究講座の開講でノウハウを学びました運営機関…（聞き取れず）…を支える産学官金によりますコンソーシアム、こうした仕組みを取り入れて、これを発足させ、まずはこうした研究講座の実現によってこうした講座の開設につなげていければとそんなことを検討しているというふうに伺っているところであります。

広域連合といたしましても、こうした「考える会」の考え方を支持し、これを支援していきたいと思うところであります。

「将来的にどういった分野に」ということでありますが、これはまだまだ今お話がありましたようにランドスケープデザインという非常に大きなデザインから、いわゆる商工業のデザインまでさまざまなもの、分野におきまして、さらに検討を進める必要があるかと思っております。

いずれにしましても将来的には航空機システムとこのデザインを2本柱として、信州大学の南信州キャンパスとしてこの地を実現していくことができればということを考えているところであります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） ちょっと初歩的な、初歩的なのか初期的なことからちょっとさかのぼってお聞きをしたいと思うんですが、平成25年の3月3日に「高等教育機関を考えるシンポジウム」ということで、飯田女子短期大学において南信州広域連合主催で行われました。その後、紆余曲折があつて、最近航空機システム共同研究講座のめどがつくとともに進展が見られるようになったと感じております。

今お話のありました、昨年、2017年10月の会議では、やっと設立に向けて具体的な動きになったのかと思いましたが、残念ながら「設立するんだ」という強い意思統一ではなかったと感じました。

ここでお聞きします。主体となつて進めているのはどこでしょうか。広域連合でしょうか、南信州飯田産業センターでしょうか、あるいはほかにありますか、どこが主体性を持って進めていくかお聞きをします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 現在のところ、このデザイン系の大学院大学を検討しております主体は「設置を考える会」という認識でおります。

広域連合としては、その「考える会」を支援していく立場を取らせていただいているところであります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） 初期のワーキンググループとしては、南信州広域連合、南信州・飯田産業センター、それから飯田市の総合政策産業経済部がメンバーとなつて名を連ねておまして、さらに初期には広域連合として阿智村の岡庭元村長さんが積極的に関わつたことがありました。

広域連合が主体として引っ張っていく必要があるというふうに思いますが、今お話では「設置を考える会」を支援していくような発言でお聞きしました。

ただ現在、そこら辺がよく見えてこない。で、また、GKデザインというデザインの専門家がコンサルプロジェクトとして事業者に向けて商品の改善活動を実施し、その成果報告会も実施しているようではありますが、このことはコンソーシアム設立には必要な理解者を得る、企業の理解を得るために必要なことと思いますが、設立に向けての方向性としては多少意味合いが違ってくるのかなというふうに感じます。

で、信州大学との連携という図式、方向性も今お聞きしたように思いますが、航空機システム共同研究講座とお互いに支え合っているような考え方としては、こ

れは非常に有効性のある構想と思います。

信大との調整は、どの程度行われているのかお聞きをします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 今お話がありましたように、このデザイン学科、あるいはその前提となりますコンソーシアムの共同研究講座、こういったことにつきましては信州大学とも意見交換をさせていただき、そして、この実現に向けて連携を取っていければということを考えているところであります。

いずれにいたしましても、先ほど申し上げましたが、この航空機システムの共同研究講座を開講していく中で、私どももノウハウを学んできたというように思っております。

まずはコンソーシアムをどのような形で発足させるか、そして、それを研究講座から学科にどのように変更させていくか、こういったことを信州大学とともに考えていくことができると考えてございます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） じゃあ、まだ具体的にはそんなに進んでないというふうになるんでしょうか。

いずれにしても、南信州広域連合が主導性を発揮してもらいたいというふうに考えておりますが、先ほどもちょっとお聞きしましたが、設置を考えるという「設置を考える会」ですか、まあ「デザイン系大学院大学設立準備会」といったようなものを発足させ、これはさっきの答弁だとあるようにお聞きしたんですが、発足させていくのが喫緊の課題というふうに考えますが、その点は実際にできているんでしょうか、機能しているんでしょうか。まずお聞きします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） まだそこまでは行ってない状況でございます。

広域連合といたしましては、デザイン系大学院大学を実現するためのプロセスとしまして、まずは研究講座を設置するためのコンソーシアムの発足、これを支援していく、そういったことを考えております。

そのための、いま吉川議員からお話がありました「設立準備会」、これを発足させるべく、今準備が行われていると伺っているところであり、これに広域連合としても関わっていきたいと考えておるところです。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） コンソーシアムを進める前に、どういうものをつくるかという方向が出ないとコンソーシアムに協力してくれる企業はいまいち集まらないように思うんですが。

そんな意味では、ワーキンググループの発足当時から指導いただいている、例えばデザイン界の重鎮と言われる…（聞き取れず）…教授とか、さらにこういった方々と連携を進めながらどんなものをつくっていくのかということ、準備会を進めて方向性を出していただきたいなというふうに思います。

で、航空機システム共同研究講座は、サテライトキャンパス構想として平成32年までの事業計画となっておりますので、デザイン系大学院大学と相まって複数の学科としてこの地域に根ざしていけるよう格段の配慮をいただきたいと思います。

要望ではありますが、所見あればお願いします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 吉川議員からの要望ということでお聞きをさせていただいたところではありますが、私どもといたしましてもそうした方向性をしっかりと確認しながら進めていければと思うところでもあります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） よろしくをお願いします。

それでは、次の「屋内の体育施設について」お聞きをします。

まず、何をつくろうとするのか、どのように考えているのかをお聞きしてまいりたいというふうに思います。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 南信州広域連合の基本構想基本計画の実現を目指し、構成市町村と一体となってリニア・三遠南信時代を見据えた地域づくりを推進していくための検討を進める中におきまして、これまでの「「行う・見る・支える」という多様なスポーツ文化に対応し得る、県の南の玄関口にふさわしい県の屋内体育施設を設置したい」という県知事あての要望書を昨年3月に提出したことはご案内のとおりでございます。

広域連合におきましては、現在、屋内体育施設、アリーナ、それからコンベンション施設の設置に向けた具体的な検討に着手するための第一歩といたしまして、この圏域内の候補地に関する情報を構成市町村から…（聞き取れず）…出したところでもあります。これは先ほどのあいさつで申し上げたとおりであります。

昨年12月には、郡市民2万5,000人を超える署名とともに、飯田市体育協会、下伊那体育協会の連名によります大型複合アリーナの実現を求める要望書も提出いただきました。この要望には、2027年に開催予定であります長野国体に合わせまして、全国から…（聞き取れず）…だけでなくさまざまな人々が集い、スポーツを通じて交流し、地域住民の心身の健康を図るとともに、全国に誇れる県のスポーツ文化の振興拠点となる複合アリーナとしての実現が求められております。

併せて、災害時の避難拠点やコンサート、イベント開催などの付加価値を創造する施設も視野に入れることが要望されておまして、今後の検討の参考にさせていただきたいと考えているところであります。

今回の情報提供につきまして、あくまでこれから具体的な検討をするための基礎として活用するものでありまして、施設の具体的な機能、財源等につきましては具体化、情報を整理していただいた上で明らかにしていきたいと考えているところであります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） まあ、先ほどのあいさつの中で述べられましたけれども、候補地の募集を始めたようで、「情報が寄せられている」といった報道もあります。

どのようなものをつくるかもわからないのに土地が優先しているといった思いもあります。肯定的なことを考えれば、何をつくるかを並行して検討していけば良いことだと思えます。ただし、土地情報がひとり歩きしないことが必要というふうに思えます。

で、先ほども話ありました、どのように進めていくか、この方向性、非常にちょっと問題点ありというふうに思いますが。

というのは、国体に関連したアリーナを建設というような声もある、今の説明もそんなような声もありますがどのように考えているのか、それは具体的にどの種目に重点を置いて招聘しようと考えているのか、そんなことをお聞きします。だぶる部分もありますがお願いします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） まあ基本構想・基本計画におきましては、構成市町村が一体となってこのリニア・三遠南信時代を見据えながら地域づくりを推進していくために必要なインフラとしてのこの屋内体育施設の整備ということで、まあ必ずしも国体誘致のみ目指しているものではないという考えであります。

しかしながら、この屋内体育施設を整備するというのであれば、やはりこの2027年に開催予定である国体の誘致を目指すということは自然な流れではないかというふうに一方では考えるところであります。当地域に国体の種目を誘致するという事は、これは行政の立場だけで決定できるものではなくて、体育協会はじめ、各競技団体の皆様方とも意見を交換させていただきながらやっていくことが重要というところをしております。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） まあ国体、そういった大きな大会をする場合に、一般的な屋内、室内競技であれば、まあそのやるだけの場所ではなくてウォーミングアップするためのサブアリーナとか必要になってくるということもある。

また、北信のほうでは「エムウェーブ」といったような大きな既存施設もある。また、北信、東信での屋根付き施設について検討も進んでいるというようにお聞きをしておるところであります。

国体を開催したとすれば、その後の施設をどのように活用していくかの方向性についても、維持管理の上で大きな負担になると思いますし、国体誘致のためのアリーナは県を説得する理由として不十分であると思います。

まあ、今の連合長の答弁も何か揺れているようなところを感じるんですが、そこら辺、まあはっきり言うと国体誘致という方向性は外したほうが良いというふうに思いますがいかがでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 先ほど申し上げたとおり、これは体協の皆さん方からの2万5,000名あまりの郡市民の皆様方の署名を添えての要望ということもありまして、そういったことも踏まえながら、こういった県民的体育施設、あるいはコンベンション施設の検討ということで考えていければと思っておるところであります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） 確かに体育関係の意思表示も基本となって要望もされているようではありますが、この地域の民意というんですかね、ほかの人たちの要望、どんなふうに思っているのか反映してもらいたいなあと思いますが、これは、この点については後ほどまたお話をしたいと思いますが。

まあ、そうはいつでもリニア中央新幹線開通を考えた上で、長野県の玄関としてリニアバレー構想の「世界から人を呼ぶ感動フィールド」という言葉の目指す中で

は、会議やイベントなどが開催できる、1万人規模の屋内体育施設の建設を長野県に要望していけば良いと思います。

また、この地域にはプロスポーツリーグの招聘などで開催するだけの施設がありません。「一流に触れたい」という願いも郡市民の中から聞こえるところであります。

また、コンサートなんか伊那までは来るんですが飯田までは来ないという残念な状況があります。

リニア中央新幹線開通に向けて、工業展示会の開催とか、あるいは農業を含めた産業展を開催できるような、複合的に利用できるような方向性が必要ではないかと思いますが、所見をお聞きします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 今お話がありましたように、このリニア時代に向けて県の南玄関口にふさわしい、そういった屋内施設の整備ということにつきましては、先ほど申し上げたように県知事あてにも要望書を提出させていただいているところでございます。

整備にあたっては、リニアの整備効果が十分発揮されるような施設であること、それから、これからも県と進めて策定してまいりましたリニアバレー構想やリニア将来ビジョン、リニア周辺整備基本計画等のこの地域の活性化にリニアを活かしていくための計画との整合性もやっていければということを考えながら検討を進めていく必要があると思います。

今、お話のありましたように、まだまだ整備費用や運営など課題も多いわけですが、屋内施設の多機能化については当然検討をしっかりとしていくことが必要というように思っております。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） まあ、そういうことで検討を進めていく中で、今のところお話を聞いておると体協の皆さんの声は伝わってきているけれども、工業系というか民意というか、もう少し南信州の郡市民の考え方というのが取り込まれても良いのではないのかなあ、それには広域連合が先頭になった委員会を組織するなどして進めていくべきではないかというふうに思いますが、そこら辺しつこくなりますがお聞きをしたいと思います。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 現段階におきましては、候補地になりそうな、そういった

土地についての情報提供をお願いするよという段階でございます。

その情報をいただいた上で、吉川議員からも話がありましたように、それをどのような形でまとめていくかということについて検討を進める必要があると考えているところでございます。

そうした中でこの内容を含め、あるいは…（聞き取れず）…財源というか…（聞き取れず）…さまざまな検討…（聞き取れず）…含めて検討ができるような体制をつくっていければと思っているところでございます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） やっぱり土地情報が優先するということにお聞きするんですが。

阿部知事も土地ありき、「ここに土地があるからではないよ」というような発言もありますので、やはり目的というのをしっかり検討していただきたい、そんなことを要望しまして。

もう1点、国体誘致についてお聞きをします。

今までは国体のために屋内施設を設置するには反対、異論を唱えております。

しかし、南信の活性化のためにも、国体誘致については力を合わせて取り組むべきだと思います。

矛盾しているようなことを言うておりますが、そうではなくて、やっぱり活性化のため。例えばラグビーの招聘をしたらいかがでしょう、思います。

カヌーという声もあるようですが、サッカーは中信、北信にサポーターも大勢おりまして活性化をしておる。南信は、先日、全国大会行きました飯田高校、下伊那農業高校、岡谷工業といったラグビーの高校の強豪校がおります。

で、今までもこの決勝戦を、飯田と下農の決勝戦を長野でやるということが恒常化しております。何でバスを連ねて長野まで行ってこの南信の高校の決勝をやらにゃいかんのか、何度も理不尽な気持ちを持っております。

この南信に芝を張った競技場をつくり、実業団を先頭に日本中からラグビーが集まってくるような、合宿も含めて集まってくるような、ラグビーのメッカとなるような施設を検討していただきたい。

ナンバー1でなくてもオンリー1となるような取り組みを願うところでありますが、所見があればお願いします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 国体誘致の種目につきましては、先ほど申し上げたところ

であります、行政のみで決定するというのはなかなかできないことでありまして、やはり競技団体の皆さん、県下まとまった形での県的な競技団体の皆さん方のやはりご意見というのが大変重要になってくるというふうに考えているところであります。

まあ、そうした皆さん方と意見交換をさせていただく中で、どういった競技をこの国体誘致の対象としていくかということになるのではないかとというふうに思うわけであります。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） はい、よろしく願いいたします。

続きまして、「一村一企業ダーチャ運動」についてお聞きをします。

豊丘村の下平村長さんが視察に行ってきた報告をしてくださいました。私としては大変興味を持ち、多くの人に知ってもらいたいと思い質問をしました。

まず、ダーチャとはどのようなもので、どのようなメリットがあるか、簡単にわかりやすく説明をお願いします。ダーチャを選択した理由も含めて説明いただければと思います。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） それでは、この件につきましては、豊丘村の下平村長さんからお答えをさせていただきます。

○議長（清水 勇君） 下平村長。

○豊丘村長（下平喜隆君） お答えを申し上げます。

私、この広域連合議会に参加させていただきましてほぼ丸7年経ちますが、初めての発言の機会をいただいたことを吉川議員に御礼を申し上げさせていただきたいと思っております。

まず、ダーチャの概要についてということでございます。

ダーチャというのは、今、私パワーポイントなんかを持って豊丘村の中ではいろいろ説明して歩いているわけですが、考えてみるとこの場では1回も説明をしたことがなくて本当にありがとうございます。

まあ、ロシアのいわゆるシステムですけれども、もともとはピョートル大帝が貴族に下賜したなんていうのがスタートだといっておりますけれども、旧ソ連の時代にですね、ソ連の場合は国民が全員国のサラリーマンでありますから、給料を国が払わなくてははいけません。

しかしながら、その給料が払えなくなってソ連はつぶれたわけですがけれども、その中で都市部の住民に対しまして、都市から1時間から2時間かけた地に、郊外に農地を貸しました。継続的に貸すんですけれども、1家族1アールから6アールまでということで、そこで「金は払えないけれども食う飯はつくってくれ」ということでありまして、それが現在一番の苦しかったころ、ロシアを…（聞き取れず）…しています。

はい、わかりました。そうですね、すいません。

豊丘村はあれなんです、議員の時間が30分ということで、答弁の時間はカウンタに入らないということなんで、その習慣が慣れておりまして、ここは足して40分ですから大至急やります。

まあ良くなったんですけれども、それが文化として根付きました。サンクトペテルブルグ辺りも、この間もテレビでやってましたけれども、土日になるとみんなダーチャに行っちゃって、みんな別荘に行って帰ってこない。

で、子供、夫婦、家族で土日は過ごして耕して、そこで家族の結束をつくり、かつまた自然と触れることによって心のケアをすると、メンタルダウンに対して対抗をしていくんだということでもあります。

で、その中で、また食につきましてもジャガイモの全生産量の90%はダーチャ、果物も70%近く、野菜につきましても半分以上それぞれが各家庭が自分で勝手に作っているということでもあります。

で、それから、それは一般のダーチャですがけれども、その企業ダーチャについては、その企業版をこの飯田でやってみようということでもあります。

次の現在の進捗状況についてまで答えてよろしいですか。はい。

まあ豊丘村としましては、そういうわけで私が現地を見に行ってきたということで、一村一企業ということでもありますので、じゃあまずは豊丘で1号店を開こうということで、もう既に地域おこし協力隊員ではありますけれども、東京の各企業を回ってダーチャを説明する中で、それに対する興味を誘っておるわけでございます。

具体的には、もう豊丘村としましては既にこのダーチャの話を持ち込みました「マーケティングフォースジャパン」に対しまして、今年の4月から職員を2年間出向させて、ダーチャをはじめさまざまなものを勉強してくるようというところで動いています。

ダーチャが、この企業版ダーチャがこの地域で機能することによりまして、遊休

農地を増やすことを食い止め、さらには一流企業の皆さんがこちらに来て泊まって行っていただきますので、田舎と都市との交流も盛んになるということで、この地域興しの足がかりにしていきたいと思っているということでございますのでよろしくをお願いします。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） ありがとうございます。

それでは、次の（2）の「自信と誇りの持てる農業の再構築」ということで、具体的なシステムについてお聞きをしてみたいと思います。

実際にはどのように運用されていますかお聞きをします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 南信州地域内には標高差から生まれます気温差、あるいは長期にわたって生産出荷が可能という利点を活かしまして、少量であっても年間を通して供給していくことで、地域に残る伝統野菜や少量生産される地域食材を中心とする農業を産業とすることが可能ではないかということ、マーケティングを専門にする民間企業の支援のもとで可能性を探っております。

自治体ではなくて14市町村として取り組んでいることに関心を持っていただいている協力企業に対しまして、試験栽培をされた野菜の店頭への採用をしていただいております。市場の反応を確認しているというそんな状況でございます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） 農業、農産物の出荷についてということであります。

私事ではありますが、少しばかりの家庭菜園やっております。皆さんもそうだと思いますが、時期によっては沢山できることがありますので、近所に配っても嫌な顔されこそしませんが迷惑なこともあります。そんな野菜の余剰分をプールして流通することができればと考えておりましたが、先日、長久手市の長久手田園バレー構想を視察してきました。

特徴的なことは、少量の農産物でも出荷をすることができ換金することができる。ほとんどが兼業農家である長久手市は、都市部と連携することによって農業が活性化し後継者の育成にも貢献するとのことでした。ドイツ発祥のクラインガルデンというのも同じような趣旨のものと思います。

将来的に中山間地と市街地との連携につながればと思います。併せて、今問題になっている空き家対策と耕作放棄地対策に効果があると思います。

これを進めるにあたって、広域連合としての支援をさらにお願ひしたいと思ひますので所見をお願ひいたします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 先ほど申し上げましたように、標高差を活かしながら、この個性のあるものを継続して提供していくということができればと考えておりまして、当圏域のように、少量他品種の生産であっても事業としての可能性はあるのではないかと見ているところであります。

協力企業及び民間の専門家、それから地元の協力農家など、関係する皆さん方の調整、あるいはプロジェクト進行の支援などを広域連合のほうで担っていければと考えているところであります。

将来的には、事業の…（聞き取れず）…や団体等に移管することも考えられるのではないかと思うところであります。

○議長（清水 勇君） 吉川明利君。

○30番（吉川秋利君） 3点質問しましたが、いずれにしても広域連合の主導性ということ非常に期待しております。よろしくお願ひして質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（清水 勇君） 以上で、吉川秋利君の一般質問を終わります。

◇通告2番 新井 信一郎

○議長（清水 勇君） 次の一般質問に移ります。

新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） こんにちは。飯田市議会 新井信一郎でございます。

一般質問に進む前に、昨年、元下條村議会議長 宮嶋清信さんの御逝去を悼み、謹んでお悔やみを申し上げます。

彼とは年齢も比較的近く、かれこれ10数年前になりますか、当時自治体の壁を越え若手議員の会を結成し、リニア新時代に対応し得る旧態依然にとらわれない政治をしよう、そんな崇高な信念と若手ならではの行動力と発想力で議論を重ねさせていただきました。

ラグビーで鍛え上げた本当、腰の据わった彼の政治力には、私などまだまだ足下には及びませんが、少しでも彼の意思をつなげればという思いも含め一般質問にチャレンジをさせていただきます。

1. リニア新時代を見据えた取り組みについてです。

産業振興と人材育成の拠点整備についてお伺いをさせていただきます。

国県の支援を得るために、航空宇宙産業をリード役としての整備を進めてまいりました。南信州・飯田産業センターの機能拡充による移転、工業技術センター、EMCセンターの移転により、当地域の産業すべての振興を図る拠点となっていくかと思いますが、その辺りにつきましてお考えをお示しく下さい。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 旧飯田工業高校の施設を活用しての産業振興と人材育成の拠点整備につきましては、国県の支援を得るために航空機関連産業の振興を目的とした整備を優先的に進めてきておりますが、現在進めております第2期工事の完了によりまして、南信州・飯田産業センターの機能を拡充し移転することができるようになるかと考えています。

さらに、工業技術センター、EMCセンターの移転もできるようになってまいりますので、当地域におきますものづくりのすべての分野の振興を図る拠点になるという考えを持っております。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 「特別教室棟を食品産業の研究開発に活用する」との報道がありました。地方創生拠点整備交付金を活用しての特別教室等を改修し研究開発施設とするように計画をしているようでありますが、その内容についてお伺いをいたします。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 広域財団法人南信州・飯田産業センターの理事会におきまして、食品産業界の分野を越えた共同によります新製品開発等に活用する施設の設置要望がありましたことを受けまして、特別教室棟を改築し食品産業界の振興に資する新たな研究開発拠点を整備するということをございます。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 以前から指摘をさせていただいておりましたが、航空宇宙産業ばかりではなく、今後地域産業全体の底上げに寄与できる取り組みの1つと理解をさせていただきました。

そこで、この後に教育行政について言及をさせていただくんですが、当圏域には残念ながら4年生の大学機関がございません。現在ないものを幾ら悔やんでも

何も始まりません。

まあ、おかげさまに身近に伝統ある高校が各分野ごとに設置をされており、それぞれ特色ある取り組みをし、成果を上げられて活躍のまっただ中でございます。

今回、食品産業界の振興に資する新たな研究開発施設を整備する。それにあたり地元高校生も参画できる、この分野では下伊那農業高等学校の皆さん方を中心に活用できる。すなわちよく言われる産学官等々の連携こそが産業界の裾野を強固なものにする取り組みと私は思いますが、そのように理解すれば良いのでしょうか。

次の（２）の設問とも若干かぶりますがいかがでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 当然ですね、そうした高校とのさまざまな形での連携ということも考えていけるのではないかと考えていますし、実際に今お話がありましたように下伊那農業高校と食品産業界とは既に連携を取ってさまざまな取り組みがなされているという認識をしております。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） ぜひ学ぶ場の環境づくり、幅広く、そして柔軟に対応をこれからもよろしくお願ひしたいと思います。

戻ります。イとしまして、「地の拠点」、「産業振興と人材育成の拠点」と名称がそれぞれ変わってまいりました。郡市民に身近なエリアとするために愛称募集を試みてはいかがでしょうか、どのようにお考えでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 現在のこの整備工事につきましては、来年早々には完了できるよう今工事を進めているところでありますが、その愛称をどうするかということとは、これはまあ検討課題として認識させていただいておるところであります。

広く意見を聞き検討するということも大事だと思いますし、県との調整も必要になってくることがあるかなとそんな理解をしています。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） ぜひ幅広く郡市民の皆様方からご意見を聞く、そして何より次世代の皆様方が学ぶ環境として研究する場所、そのことを考えますと学生たち、生徒たち、児童たちにも幅を広げてそんなアイデアをちょうだいするのが良いのかなあというふうに感じます。

今後ともぜひよろしくお願ひいたします。

次に、(2) 教育行政についてをお伺いをさせていただきます。

アとしまして、地域人教育についてまずお伺いをします。

地域人教育の本旨であります地域で活躍できる人材づくりについて、O I D E 長姫高等学校と飯田市が実践をしているんですが、これを圏域全体で取り組む考えはないでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 今お話がありました地域人教育につきましては、地域で活躍できるそうした人材づくりを目指しまして、O I D E 長姫高校と飯田市、そして松本大学が三者協定を結びモデル事業として実施してきて、既に5年間というふうになってその成果が出てきているというふうに承知をしております。

これはO I D E 長姫高校には当然ながら飯田下伊那ならず、飯田下伊那圏域から高校生が集まってきているというように認識しておりまして、そういう意味では広域連合の構成市町村の中の高校生が対象になっているという理解であります。

これに限らず、各校におきましてはさまざまな取り組みがなされていると思えます。例えば、民族芸能によりますものをはじめとした地域の伝統、文化、芸能の伝承、こういったことに高校が関わったり、さまざまな形でこの人材づくりが既に各校で行われてきているというふうに考えておりまして。

やはりこの地域の将来を見据えて、そうした地域を担う人材、この教育の分野におきましてもこれからも実施していくことができればと、これを広域連合としても願うところです。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） ありがとうございます。

現在の状況は、非常に全国的に見ても大学がないエリアにおいては非常に先進的な取り組みがなされていると私も実感を得ております。

ただ、今後さらに加速を増さなければならぬのかな、見守っているだけでは今後、地域の人材をさらに流出してしまうのではないかと、そのように考えます。

信濃毎日新聞社さんの記事から抜粋をさせていただきますが、「人口減、歯止めへ不振」と、飯田下伊那すべての自治体で人口が減りました。

各自治体は必死で移住定住対策に取り組まれています、結果は報道のとおり残念ながら芳しくはございません。

そこで、今後は、南信州広域連合圏域一丸となつての人材の育成、そして特に若

者が帰ってこられる雇用の場の創出を提供していかなければなりません。

その足がかりの1つとして、IT技術の有効活用についてお尋ねをしたいと思います。

次の質問に入ります。イ、教育におけるICT活用の現状についてをお伺いいたします。

1回目の質問としまして、教育現場でのICTの導入が始まっていますが、先進的に取り組んでいる喬木村さんの状況を説明をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（清水 勇君） 市瀬喬木村長。

○喬木村長（市瀬直史君） ご質問をいただきました喬木村におけるICT機器の整備状況、活用状況についてご回答させていただきます。

喬木村の小中学校は、中規模校の第一小学校、児童数319名、小規模校の第二小学校、児童数48名、中学校生徒数209名の3校がございます。

当村の学校教育におけるICT機器は、平成27年度から順次整備を行ってまいりまして、タブレット端末につきましては、第一小学校では生徒数の約5割、第二小学校は約8割、中学校では1人1台の環境が整備されました。また、3校すべての教員に対しても1人1台整備を行っております。

小中学校すべての普通教室、特別教室では、電子黒板とこれらICT機器を活用するための無線LAN環境を整えてございます。

さらに、2つの小学校の間には遠隔合同学習支援システムを導入させていただいております。

加えて、授業や学習でICT機器を有効に活用するためにデジタル教科書や学習支援ソフト、ドリル学習ソフト、共同学習支援ソフトなども導入をさせていただいております。

2つの小学校では、遠隔合同授業を行うことによりまして、小規模校の児童が多様な意見に触れ、他者へ自分の意見を伝え、他者の意見を受け入れる機会を増やすために各合同授業を行っているところであります。

現在は、生活科、算数、国語、総合学習、外国語活動の授業で実施をしております。

普段の授業では、小中学校ともに教員がデジタル教科書を電子黒板に表示をいたしまして、教科書の重要な部分を書き込んだり拡大表示を行ったり、画像や動画を

流したりした授業を展開をしております。

また、課題解決、あるいは問題解決のために児童生徒用のタブレット端末に問題を送信をいたしまして、個々の意見を書き込ませ、回答を電子黒板に送信することで全員の回答を一度に表示することができ、個々の回答を紹介することや回答のグループ分けを瞬時に行うことができるために、授業での話し合いの場や課題を解決しようとする児童生徒の協同的な学習の一助となっております。

さらに、機器の有効活用を図るために、朝の時間ですとか放課後の空いた時間を活用いたしまして、タブレット端末とドリルソフトによる学習も行っております。

現在、こうした電子黒板を活用したり、あるいは作曲支援ソフト、プログラミングソフト、あるいは共同学習支援ソフトを活用いたしまして、多くの意見に触れることや話し合いの場、課題解決の場の能力向上を図っているところでございます。

ただ、デジタル教科書やドリル学習ソフトは、使い勝手が良いためにほぼすべての授業で活用させていただいておりますが、I C T機器は従来のノートやプリント、あるいは教科書や教材などの授業で活用するアイテムの1つと考えておりますので、必ずしもすべての授業で活用するものではなく、I C T機器を活用する生徒、子供たちの意見がスムーズに集約できたり、まとめたりできる場面での活用に心がけているところであります。

今後は、新学習指導要領に定めております思考力、判断力、表現力の向上のために、児童生徒の主体的な話し合いや意見交換を行う協同的な学びのために、また、児童生徒が研究した課題を発表するプレゼンテーション能力の向上のためにI C T機器の活用を増やしていきたいと考えているところであります。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 喬木村村長、ありがとうございました。

そのように幅広くこのような機器を使い、学校間の連携、そして今まで子供たちの発言が陰になってしまった部分も一同に介しての議論の場、プレゼンの場、協同的な主体的な考えの場ができる、そのようなメリットもございます。

もちろんお金が掛かったり、機器の更新にはお金も掛かります。そういったものに関しましても、それは我々大人がしっかりと働かなければならない。そして子供たち、この地域で学ぶ皆さん方にきちんとその力を発揮できるような状況をしていかなければならないと感じます。

この発言はぜひ今後活かしていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいた

します。

そうしまして少し現在のこの南信州圏域に目を移していきましょう。

現在、ism-Linkとして医療介護連携システムを構築しつつあります。そのシステムネットワークの拡充と併せ、さらに教育もきっかけにICT環境の整備をさらに進めていくお考えはありませんか。いかがでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） 教育に限らず圏域内におきましてICT環境の整備をしていくというようなことは、大変重要なことという認識をしているところであります。

特に、光ケーブルによりますICTの環境整備ということにつきましては、大変重要な課題であるわけでありまして。

ただ、ご案内のとおり南西部地域をはじめ、まだまだそういった光ケーブルが整備されていないというような地域におきましては、こういうICT環境の整備というのは大変大きな課題になっているところであります。

広域連合におきましては、現在ICT環境の整備に向けて、構成市町村の担当者によります圏域内の光ケーブルによります通信網の整備に向けた研究会を立ち上げております。

関係機関や民間企業等とも情報を交換する中で、早期にこうした環境が実現できるようこれからも検討を続けていきたいと考えております。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 平成もまもなく終わる、そのようなときに光ケーブルがない地域、ある意味貴重なのかもしれませんが、それでは今後リニアに対応した産業、そして企業、それぞれ我々の暮らしにどうしても必要なツールでございます。その辺りの発展は、是が非でも実現しなければなりません。

これは少し先ほどもありましたが、若者が帰ってこられる雇用の場の創出というところにもつながるのかなと感じます。

少し飯田市の実例を発表させていただきたいんですが、これは2月の20日にもう公表されております地域経済活性化プログラム2018というものがございます。

現在、地域産業を支えている労働者などが高齢化するとともに、若年層の担い手不足など人材の確保が大きな課題となる。

そして、当地域の高校生の約7割が進学等で地域外に転出、地域内の回帰率は4割程度でこのところ推移をしている。

就労の場があること、それが新たに移住先の求めている都市圏からの皆さん方からの選択の条件に地方移住を考える若者の増加があると。

そして産業界はもとより、あらゆる関係機関がこれまで以上に連携を強化し人材確保のために取り組みを進めていかなければならないと結んでおります。

そういったような中、南信州広域連合の役割というものが、先ほど来、喬木の村長様からのお話もありました。そして連合長からのその思いもありました。

人材確保のための取り組みを強く進めていく、そのようにご理解をすればよろしいのでしょうか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） これからの地域の将来を担う人材の確保ということについては、これ非常に重要な課題ですので、広域連合としてもしっかりと取り組んでいく必要があるという考え方であります。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） そういった中で、次世代、いわゆる高校生を対象とした次世代育成事業が盛んでございます。1、2、3と上げさせていただきますと、飯田OIDE長姫高校の商業科の1年から3年生までの統計的な地域人教育。

地域人教育の説明を簡単にさせていただきますと、地域を愛し、理解をし、地域で活躍する人材をはぐくむ教育の推進とあります。2つ目として、地域人材をはぐくむ教育活動が各高校で展開されるよう各高校へ働きかけと学習支援を行う。3つ、若者講座を開催し人材ネットワークづくりを進める。そのような言葉もありました。

各省庁から得られる補助金の幅がまた拡大のできる要素も加味し、学校間の距離的ハンデや長野県庁からとてつもなく遠方であるハンデ等々を克服し、子供たちのためにも、また、熱心な教職員のためにも、しいては先ほど来でございます当圏域の人材育成や雇用促進・定着のためにも事業推進をよろしくお願いしたいと思っております。

この項の締めとしまして、泰阜村の丸本議長さんからも強く光ケーブル通信網整備については要望をされておりますので申し添えさせていただきます。

次の質問に移らせていただきます。

広域連合の行政運営についてでございます。

長野県から、こちらはまず信濃毎日新聞社さんの2月1日付けの記事にありました。知事から「リニアバレー構想について地元はだれも主体的に動いていない」との記述がございました。

また、昨年来、県議会の定数削減に関しましては、飯田下伊那の合区や一減、地元の反対を押し切って強行されるなど、飯田下伊那に対する認識の低さが目立つとそのように私は感じてしまっております。

その状況に対し、連合長としての見解はいかがでありますか。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） お話のありましたその新聞記事は私も見ておりますが、あれは…（聞き取れず）…の観測記事というものでありますので、その内容についてどうこう言うことは差し控えたいと思います。

リニアバレー構想につきましては、伊那谷自治体会議において策定されております。この構想はリニアを最大限に活用して地域発展の原動力にすることで、大都市や世界の活力を引き寄せ、豊かな自然環境の中で地域も人も輝くりニアバレーを実現するというものでございます。

このリニアバレー構想の取り組みは、それぞれの地域や自治体におきまして既に取り組みを進めているところでございます。

南信州広域連合では、国や県のご支援をいただく中で、大学連携や産学官地域の人的交流、そして航空宇宙クラスターの形成などの取り組みを既に進めております。併せて、リニア本体や関連する施設の整備に向け努力をしているところでもあります。

また、移住定住や二地域の促進につきましては、先ほど吉川議員の質問にもありまして、豊丘村長さんからも答えていただきました形の取り組みも既に始まっております。

インバウンドを含めた広域観光の推進による交流人口の拡大などにつきましても、さまざまな取り組みを進めているとこういった状況でございます。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） できることはできる範囲で取り組んでいると、私も広域連合議会にお邪魔させていただきまして年をかなり重ねさせていただきました。言い方は失礼かもしれませんが、一々記事にすべて反論や異議を申し立てていては政治家は務まらない部分も大きくございます。が、しかし、我々だけができている、そう感じているだけかもしれません。

そもそも、広域連合がここまで機能し努めて行かねば県政が司る広域行政が立ち行かないといっても言い過ぎではない地域がこの南信エリア、南信州広域連合エリア

アだと言えるのではないでしょうか。

また、同じく同日の記事に、20年前の冬季五輪、長野五輪遺産について記載がありました。「良かった」、「まあ良かった」は計89%、競技会場となり交通網も整備された北信・東信の人では9割を超え、長野新幹線をはじめとする、現在北陸新幹線ですね、とする高速交通網や社会資本整備が一気に進んだと。

一方、中信・南信では、1割の人が「何とも言えない」、「わからない」と回答、「東北信に比べ随分と遅れた」、また、「土木建築費用が東北信に偏る」、「あまりメリットがなかった」、そして極めつけは「南に住む者の不公平感は今も心に残っています」と、これなんですね。住民感情に痛く深く大きくしこりが県政運営に我々の感じるところ陰を落としているのです。

で、決してリニア事業すべてを県にお願いをし、すべておんぶにだっこを望んでいるわけでは我々はありませんね。なぜか南信や中信が置いてけぼりになるんでしょうか。

歴史を若干ひもときますと、県庁の所在の位置、場所ですね、そして20年前の長野五輪、そして先にも述べさせていただきましたが、今回の県議会議員定数削減、単にこれは決まり事だからだとか、信濃の国を大合唱すれば収まる問題では現在ございません。

その辺りの県政とこの南信州広域連合、対等なおつきあいはどのようにして行い、そして、どのようにしてこの南信エリアに暮らす住民に負わせてしまった心の傷を癒やしていけたら良いのでしょうか。

先ほど来、牧野連合長答弁もございましたが、この項を締めくくるにあたり一言よろしくをお願いをしたいと思います。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） まあ、今あらゆるさまざまな観点から新井議員から思いをお聞きしたところでございます。

これからも、当然広域連合といたしましては、リニア・三遠南信時代に向けて、当地域で策定してまいりましたリニア将来ビジョンやリニアバレー構想等、あるいはリニア駅周辺整備基本計画等、さまざまなこの地域のこの計画、あるいは南信州広域連合の基本構想、こういったことに基づいて当地域でできる事業はやはりみずからしっかりやっていく。

そして、それを補っていただく形で県に対しましてもしっかりとお話をさせてい

ただ、こういったことを積み重ねていくという中で、私はリニア時代に向けての当地域の可能性が高まり、そしてリニア・三遠南信時代において当地域における人づくり、産業づくり、地域づくりがきっと良い方向に向かうということを思うところでございます。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 連合長ありがとうございます。力強い表明と私は理解をさせていただきます。

我々のできることはしっかりと働き汗をかく、そしてどうしても足りない部分は県にお世話にならなければならない。そんな対等なる関係をこれからも構築をしていきたいそんなような表明だったかと思います。

そして、今その私3点、長野県庁の所在の位置だ、長野五輪の話だ、過去の政治判断も大きかったと思います。そういったようなこと、それは次世代の皆さん方は知らないんですよ。

そのようなある意味負の部分、私も県庁の位置の問題というのは聞き漏れてきた話でしか知りません。そういったような中、我々のその未来、将来に対しまして子供たちが、学ぶ皆さん方がしっかりとこの地域で、南信州のこの地で大きく学び技術を身につけ、その将来大きく羽ばたいていただきたい。そのような考えを私も強く要望をさせていただきたいと思います。

そして、要となりますリニア中央新幹線の計画、まあ計画といいますか、もう実行に移っておるんですが、そのような辺り、国家戦略との連携をお伺いしたいと思います。

まず1回目としまして、国土交通省がリニアを活用したスーパーメガリージョンとの新たなナレッジリンクの形成を提案をしていますが、それに対する南信州地域の取り組み状況はいかがでしょう。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） これはこれまでも説明をさせていただいております、産業振興と人材育成の拠点、これがまさにそのナレッジリンクの一翼を担う拠点としてのやはり機能を持つてくるだろうということを想定しているところでございます。

広域連合が策定いたしましたリニア将来ビジョンだけではなく、先ほどから申しておりますようにリニアバレー構想やリニア周辺整備の計画等、リニアに関連した地域の活性化策をしっかりと広域連合として実現していくために、国の動きを見なが

らこれからも積極的に広域連合としての関わりができればと思っております。

広域連合の基本構想・基本計画の目指す地域づくりは、リニア時代を見据えナレッジリンクの形成に資するよう、この地域が持ちます多様な資源や機能、あるいは可能性を地域づくりとして提起をしているわけでありまして、その実現を目指すことが大事だと思っているわけでありまして。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） はい。そのように取り組みを力強くお願いしたいと思います。

そのような中、国県に対する働きかけの状況について、お伺いをさせていただきます。

○議長（清水 勇君） 牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） こういった取り組みというのは、常にこの情報を共有しながら進めていくことが大事だということに考えているところであります。

リニアを見据えた地域づくりにつきましては、広域連合として先ほども議論させていただきましたが、アリーナ、コンベンション施設の整備や道路改良の重点化、広域観光の事業展開等をこれまで行ってきており、特にリニア関連に向けましてはインフラ整備につきましては、国県への要望活動を重点的に行っているところでございます。

○議長（清水 勇君） 新井信一郎君。

○28番（新井信一郎君） 我々が欲するもの、それは前段、吉川先生のほうからも質問ありました。地域の意思をもう少し確認しなければならない。そして、我々が求めるものは何なのか、その一方で、国として県として必要とされるものも双方に思いがあって、しかるべき整備課題であると思えます。

まあ一時期のように何でもかんでも身近にそろえ、維持管理が行き届かなくなる残念なケースに陥らないためにも、国の国土計画にきちんと足並みをそろえ、リニア効果を最大限のものとし、現在、不均衡がだれ目から見ても明らかなる県政への是正はやはりおんぶにだっこでは今までどおりの元の木阿弥となってしまいます。

20年を経過してもなお語り継がれる長野冬季五輪の熱き感動、そして、昨日閉会式を大きな感動で迎えた平昌オリンピック、感動冷めやまぬうちに14市町村一枚岩のもと難題難問を克服してまいりましょう。

ご答弁にお力添えいただいた皆様に私から…（聞き取れず）…ではありますがメダルを。

そして、このたびご勇退をと言っていていいんでしょうか、一区切りをと明言をされております、正式には3月定例議会にての見通しと報道をされておりましたが、いずれにせよ長きにわたり6期24年、地方自治発展にご尽力されました副連合長、松島泰阜村村長に私からエアーではありますが金メダル授与させていただき、私の広域連合議会一般質問を閉会とさせていただきます。

終了です。

○議長（清水 勇君） 以上で、新井信一郎君の一般質問を閉じます。

これを持ちまして、一般質問は終了いたしました。

日程第8 議案審議（8件）即決

○議長（清水 勇君） 日程に従いまして、これより議案審議に入ります。

◇ 議案第1号 南信州広域連合資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（清水 勇君） はじめに、議案第1号、南信州広域連合資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） それでは議案第1号についてご説明を申し上げます。

本案は、南信州広域連合資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。看護師等の人材確保対策事業を推進するため新たな基金を設置をしたいとするものでございます。

連合長ごあいさつにありましたが、南信州広域連合では本年度から看護師等の修学資金貸与制度を開始いたしまして現在10人の奨学金を貸与しております。

で、この奨学金貸与に必要な資金を積み立てるとともに、飯田医師会からいただくご支援の受け皿ともするために看護師等確保対策推進基金を設置をして、この基金を活用し財源の確保をする中で今後も引き続き看護師等の人材確保に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

議案をご覧いただきたいというふうに思います。議案の内容をご説明申し上げます。

南信州広域連合資金積立基金条例の別表に議案書の裏面に記載のとおり看護師等

確保対策推進基金を追加をいたしまして、併せて基金の設置目的及び処分できる用途を定めるものでございます。

附則は、施行期日を定めるものでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第1号につきまして、ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第1号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第2号 平成29年度南信州広域連合一般会計補正予算（第4号）案

○議長（清水 勇君） 次に、議案第2号、平成29年度南信州広域連合一般会計補正予算（第4号）案を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） 議案第2号についてご説明申し上げます。一般補1ページをご覧ください。

本案は、平成29年度南信州広域連合一般会計補正予算（第4号）案でございます。第1条の歳入歳出予算の補正では、予算総額に歳入歳出それぞれ8,671万9千円を増額いたしまして、補正後の歳入歳出予算の総額を24億3,302万7千円といたしたいとすものでございます。

第2条は、繰越明許費の補正でございます。

第3条は、地方債の補正となっております。

それでは歳出からご説明申し上げますので、一般補 1 2 ・ 1 3 ページをご覧ください。

2 款 1 項 1 目、一般管理費でございますが、人事院勧告等に伴う人件費の調整と職員手当の増額等をお願いするものでございます。

細目 1 3、財政調整基金積立金は、同基金の利子額がほぼ確定したことから増額分を基金へ積み立てるものでございます。

なお、以降、各基金の利子の決算見込みに基づき、それぞれ予算科目におきまして利子積立金の補正をお願いしてございますのでよろしくお願いいたします。

3 款 2 項 4 目、看護師等確保対策事業費は、修学資金の貸与に必要な財源を確保するため、また、飯田医師会様からの寄附金の受け皿として設置をいたしまいた看護師等確保対策推進基金に、今年度の貸与者 1 0 名分の次年度以降の必要額であります 1, 3 2 0 万円を積み立てるものでございます。

1 3 ページ下段から 1 4 ・ 1 5 ページをご覧ください。

4 款 1 項 1 目のごみ中間処理施設清掃総務費の細目 1 0 一般管理費のうち地域積立金は、将来の施設解体、改修と管理に備えるため施設整備基金に積み立てを行いたいとするものでございまして、併せて 3 目ごみ処理費は決算見込みによりまして事業費を減額したいとするものでございます。

4 目、飯田竜水園清掃総務費は、人事院勧告に伴う人件費の調整や将来の施設改修に備えるため、施設整備基金に積み立てを行いたいとするものでございまして、併せて 6 目、飯田竜水園し尿処理費及び 8 目、稲葉クリーンセンター整備事業費は、決算見込みによりまして事業費を減額したいとするものでございます。

続いて、歳入のご説明を申し上げます。一般補の 1 0 ・ 1 1 ページへお戻りください。

1 款、分担金及び負担金は、産業振興と人材育成の拠点整備事業のうち、特別教室棟の改修等に関わる市町村負担金でございまして、国の地方創生拠点整備交付金の申請に伴う負担金の増でございます。

5 款、財産収入は、基金利子の増額でございます。

6 款、寄附金は、看護師等確保対策修学資金事業に対する飯田医師会様からの寄附金でございます。

8 款、繰越金は、決算見込みにより増額を行うものでございます。

1 0 款、連合債は、稲葉クリーンセンター整備事業終了に伴う事業費の確定によ

るものでございます。

第2条の繰越明許費の補正についてご説明申し上げます。一般補6ページをご覧をいただきたいと思えます。第2表でございます。

産業振興と人材育成の拠点整備事業につきまして、当初計上いたしておりました5億4,900万円に、今回補正をお願いいたしました4,800万円を加えた額から、既に支出をいたしております1億5,855万円を除いた額を次年度への繰越明許とさせていただきたいとするものでございます。

続きまして、第3条の地方債の補正につきまして説明をさせていただきます。

同じく一般補6ページの第3表をご覧をいただきたいと思えます。

稲葉クリーンセンターの整備事業の事業費確定に伴いまして、ごみ処理整備事業債の限度額変更をお願いしたいとするものでございます。

続きまして、一般補の18・19ページへ飛んでいただきたいと思えます。

附表の1でございますが、今回の人件費に関する補正と1月1日現在の状況をまとめた給与費明細書でございます。

一般補22・23ページの附表2は、地方債の現在高の見込みに関する調書補正でございます。

一般会計の補正予算案につきましては以上でございます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第2号につきまして、ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第2号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第2号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第 3 号 平成 2 9 年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計補正予算（第 1 号）案

○議長（清水 勇君） 次に、議案第 3 号、平成 2 9 年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計補正予算（第 1 号）案を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） それでは、議案第 3 号についてご説明申し上げます。振興補 1 ページをご覧ください。

本案は、平成 2 9 年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計補正予算（第 1 号）案でございます。第 1 条の歳入歳出予算の補正で、歳入総額に歳入歳出それぞれ 5 0 0 万円を増額いたしまして、補正後の歳入歳出予算の総額を 1, 1 9 2 万円といたしたいとしますものでございます。

歳出から説明申し上げますので、振興補 1 2 ・ 1 3 ページをご覧ください。

1 款 1 項 1 目、広域振興事業費は、前年度決算の不用額を一般会計へ繰り出すものでございます。

続いて、歳入をご説明申し上げます。振興補 1 0 ・ 1 1 ページへお戻りください。

4 款、繰越金は、決算見込みにより増額を行うものでございます。

説明は以上でございます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第 3 号につきまして、ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑は終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第 3 号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 3 号は、原案のとおり可決されました。

◇議案第4号 平成29年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算（第1号）案

○議長（清水 勇君） 次に、議案第4号、平成29年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算（第1号）案を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

有賀飯田広域消防総務課長。

○総務課長（有賀達広君） それでは、議案第4号についてご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、消防補1ページをご覧ください。

本案は、平成29年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算（第1号）案でございます。第1条のとおり、歳入と歳出をそれぞれ1,708万3千円増額いたしまして、総額を歳入歳出それぞれ21億6,568万3千円とするものがございます。

歳出から説明をさせていただきたいと存じますので、消防補12・13ページをご覧ください。

1款1項1目、一般管理費の内人件費でございますが、1,727万9千円の増額となっております。

退職手当の増につきましては、自己都合退職者の増額分でございます。そのほかは給与改定を含み決算見込みによるものがございます。

財政調整基金積立金は、消防用資機材の購入などに充てるため、新たに370万円を積み立てたいとするものが主な内容でございます。

この欄の財源内訳につきましては、12ページをご覧くださいと思いますが、中央自動車道支弁金につきましては確定による減額を、県事務受託収入につきましては、昨年（平成28年度）の第1回定例会における当初予算の承認後の3月に決定をいたしました長野県消防防災航空隊への職員派遣に係る受託収入の増額でございます。

そのほかはいずれも決算見込みによるものがございます。

続きまして、3款、消防施設費でございますが、今回は490万円の減額でございます。

これは自動車購入費でございますが、現在更新整備を進めております龍江分署の高規格救急自動車及び平谷分署の広報連絡車の整備事業費の確定による減額でございます。

続きまして、歳入をご説明申し上げます。恐れ入りますが消防補10ページへお戻りください。

先ほど、歳出の中で、財源内訳のご説明を申し上げました以外の歳入につきましてご説明を申し上げます。

はじめに7款、繰入金でございます。当初、予算において起債償還に充てるため計上していた財政調整基金繰入金でございますが、財政上の見通しが立ったことから皆減とさせていただきたいと存じます。

続きまして、8款、繰越金でございますけれども、確定いたしました28年度からの純繰越金の増額でございます。

なお、14ページ以降に給与費明細書を添付してございますのでご覧いただきたいと存じます。

以上、ご審議の上、ご決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第4号につきまして、ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第4号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第4号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第5号 平成30年度南信州広域連合一般会計予算（案）

○議長（清水 勇君） 次に、議案第5号、平成30年度南信州広域連合一般会計予算（案）を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） それでは個別の議案説明に入る前に、平成30年度の南信州広域連合予算の全体像、それから特徴等について私のほうからご説明をさせていた

だきたいと思います。

本日、議案と一緒に、その次に議案の補足説明資料ということで添付をしてございます資料でもって説明をさせていただきたいと思います。議案書のその次について…（聞き取れず）…。

それでは、そこにあります平成30年度南信州広域連合予算（案）の特徴、概要についてでもって説明をさせていただきますが、その次にA3の綴じ込みで予算の総括、あるいは各会計予算の概要も添付してございますので、それも併せてご覧いただきながらお願いをしたいと思います。

それでは、特徴、概要についてご説明申し上げますが、はじめに平成30年度という年度につきましてはそこにありますように、今日、話題にもなっておりますが産業振興と人材育成の拠点整備事業の最終年度ということになります。

で、平成31年早々の全体オープンに向けまして、しっかりと着実に整備を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、リニア中央新幹線の本体工事をはじめとして、関連事業が次第に本格化してきておりますけれども、そのリニア・三遠南信自動車道の全通を控えた、見据えた地域づくりの取り組みをさらに具体化をしていく、そんな必要があろうかというふうに考えておるところでございます。

で、そういう中で、30年度予算の特徴でございますけれども、南信州広域連合に4つの会計ございますけれども、その4つの予算案の総額で35億5千万余ということになりました。

で、前年度と比較をいたしますと、9億1,800万円余の減ということで、率にして20.6%の減となったところであります。

で、会計別に見ていただきますと、一般会計が10億3,500万円余、45.1%の減、南信州広域振興基金特別会計が100万余の減、飯田広域消防特別会計が8,300万円余の増、それから稲葉クリーンセンター特別会計が3,500万余の増というそういう状況でございます。

で、この中で特に一般会計が大きく減少しておるわけでありまして、その要因といたしましては、1つは産業振興と人材育成の拠点整備事業費がピークを過ぎまして減少をいたします。

それから、稲葉クリーンセンター整備事業が終了をいたしますとともに、ごみ処理費が減少をいたしております。

また、桐林クリーンセンターに関わります地方債の償還も終了したということらが相まって一般会計の予算が大きく減少いたしております。

で、この中で特徴的なごみ処理費について申し上げますが、施設を更新をしたということもありまして、新しい施設で運転が始まるわけでありましてけれども、その関係で5億4,800万円余減少いたしております。で、連動して市町村負担金も減少するわけでありまして。

で、新旧の施設の通年比較ということで、通年運転でありました平成28年度と30年度の予算比較をいたしましても、ごみ処理費は約5億円余圧縮というそういう状況でございますので、施設更新の財政効果が非常に大きいということが言えるかと思っております。

こうした予算の状況と併せて、構成市町村からの負担金も総額で27億3,500万余ということで、前年度と比較して6億8,900万余の減、そういう状況になっております。

続きまして、各会計のそれぞれの概要をご説明申し上げますが、まずは一般会計の概要であります。まず産業振興と人材育成の拠点整備事業につきましては、全体計画の変更をした中で、補正予算を含めてお願いいたしておりますけれども、30年度予算では、最終の4期工事として外構整備工事を計上をしたところでございます。

続きまして、看護師等確保対策事業につきましては、財源確保のため基金の設置を今お認めいただきましたけれども、それに併せて基金の積み立て等も行っておりまして、必要な額をしっかりと確保してまいりたいと考えております。

裏面まいりまして、30年度の予算では貸付金900万円、これは新規貸与者5人分と継続貸与者10人分を計上いたしております。また、医師会からの寄附金、市町村負担金を基金へ積み立てることといたしております。

続きまして、リニア時代を見据えた地域づくりに関しまして、基本構想に基づいて取り組んでおります「調査研究プロジェクト」でありますけれども、この中で、マーケティング戦略調査事業、ICT環境整備調査事業、広域観光リニアプロジェクト推進事業という形で位置づけを明確にして予算の計上をさせていただいております。

また、地域内の二次交通のあり方を検討していくということで、地域公共交通事業費を一般会計へ移して、今後の検討につなげてまいりたいと考えております。

それから、新たに広域観光リニアプロジェクト推進事業の中で、(株)南信州観光公社の組織強化と新たな事業展開を支援をすることといたしております。

それから、その他といたしまして、すべての障害に総合的に対応できる相談支援体制の構築ということで、地域生活支援拠点整備事業に着手をしております。

続きまして、広域振興基金特別会計でございますが、ここの会計は基金の運用益で事業を行う会計でございますけれども、特別会計で実施する事業を精査をいたしまして、地域公共交通事業費は一般会計へ移行をさせております。

それから、飯田広域消防特別会計につきましては3点に整理をしておりますけれども、1つ目は、将来の消防需要、消防力の整備の見通しを検討していくということでこれは継続して検討してまいります。その中で、特に30年度は高森消防署につきまして環境の変化を踏まえた整備の方向性を検討するための調査費を計上しております。

そのほか、災害対応力の向上、あるいは消防施設整備ということで引き続き整備を進めてまいりたいと考えております。

最後に、稲葉クリーンセンターの特別会計であります。これは売電の関係の施設整備をするための特別会計でございます。その起債の償還等の関係でありますけれども、施設稼働が通年となりますことから売電収入が増加をいたしますので、予算規模多くなっております。公債費の必要額以外は将来の施設整備のための基金の積み立てを進めてまいります。

以上、概要についてご説明をさせていただきました。よろしくお願いたします。

○議長（清水 勇君） ここで、暫時休憩いたします。

休 憩 午前 11時58分

再 開 午後 1時00分

○議長（清水 勇君） 休憩を閉じ、平成30年度南信州広域連合一般会計予算について、理事者側より説明を求めます。

塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） 議案第5号、平成30年度南信州広域連合一般会計予算（案）についてご説明申し上げます。予算書の1ページをご覧ください。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額をそれぞれ12億6,240万円と定めた

いとしますものがございます。第2条は、地方債の起債の目的、限度額、利率等について、第2表のとおり定めたいとするもの。第3条は、一時借入金の最高額を2億円と定めるものがございます。

それでは、まず歳出予算についてご説明申し上げますので、18・19ページをご覧ください。

1款、議会費につきましては、議会運営経費が主な内容でございます。財源は一般財源でございます。

2款1項1目、一般管理費の人件費は、特別職等の報酬と事務局職員の給料、手当が主な内容でございます。

20・21ページをご覧ください。

細目10の一般管理費は、臨時職員3名分の賃金並びに事務局経費と関係団体等への事務的負担金及び児童手当の広域消防特別会計への操出金が主なものがございます。

細目13の財政調整基金積立金は、基金からの利子収入につきまして、当該基金へ積み立てを行うものがございます。以下、各基金からの利子につきまして、各科目において該当する基金へ積み立てを行うこととさせていただいておりますのでよろしく願いをいたします。この目における財源は分担金、負担金、財産収入、諸収入及び一般財源でございます。

22・23ページをご覧ください。

5目、調査研究プロジェクト事業費は、広域連合の基本構想・基本計画の実現に向けた調査研究プロジェクトに関する経費を計上させていただいております。

細目10、地域づくりプロジェクト事業費は、基本構想の実現に向けて取り組んでおります調査研究プロジェクトに係る事業のうち、マーケティング戦略調査事業費は、「自信と誇りの持てる農業の再構築」、「一村一企業ダーチャ」、「子供の生きる力をはぐくむ地域づくり」をテーマに事業化につなげるべく実施しております事業に要する経費を計上したものでございます。

民族芸能保存継承事業では、昨年引き続き南信州地域振興局や関係団体の皆様と連携して、地域の守るべきものの代表である伝統的な民俗芸能の保存に取り組むたいとするものがございます。

景観形成プロジェクト事業費は、リニア時代を見据え良好な景観を維持し、地域ブランドの確立を図るために、景観形成に対する事業を行ってまいりたいと考えて

おります。

南信州移住促進事業費は、各市町村が独自で取り組む移住促進施策に加えまして、広域的な連携のもと移住促進施策に取り組むことにより、U I ターン希望者への多様な選択肢を提供する機会を創出し、圏域への移住定住の促進を図るために計上したものでございます。

24・25ページをご覧ください。

I C T 環境整備調査事業費は、圏域内の I C T 環境整備及び I C T の利活用を検討するために、市町村担当者による研究会を行うために計上したものでございます。

広域観光リニアプロジェクト事業費は、(株)南信州観光公社が組織強化のために設置をいたします地域振興室及び新たな事業展開として、リニアを活用して南信州地域を旅の目的地とするためのインバウンド戦略などに支援を行うために計上したものでございます。

この目における財源は、県の元気づくり支援金、諸収入及び一般財源でございます。

7目、産業振興と人材育成の拠点事業費のうち、細目10、産業振興と人材育成の拠点事業費は、整備事業の最終年度といたしまして、進入路、構内道路、駐車場整備等を行う第4期工事につきまして、事務委託をしております飯田市へ支出するもの。

(公財)南信州・飯田産業センターが当地域の産業振興の先導役である航空宇宙関連産業におきまして、販路開拓の人材確保及び航空機産業への理解を深める教育を推進するための機器導入につきまして、地方創生推進交付金の活用により行うことに対する負担金などがございます。

細目11、信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム事業費は、コンソーシアムの運営に係ります広域連合の負担金でございます。

この目における財源は、地方創生推進交付金、市町村負担金、寄附金、地方債でございます。

8目、地域公共交通事業費は、高速交通網時代を見据えた地域内の二次交通のあり方を検討していくため、広域振興基金特別会計からこの30年度に移行したもので、地域公共交通の維持と推進に関する経費といたしまして、関係機関によって構成をされる南信州地域交通問題協議会への負担金が主なものでございます。

財源は、諸収入及び市町村負担金でございます。

26・27ページをご覧ください。

続いて、民生費でございます。

3款1項1目の介護認定審査会費は、介護認定審査の経費でございまして、審査委員の報酬が主なものでございます。

14目の在宅医療介護連携推進事業費につきましては、在宅医療・介護連携推進協議会におきまして事業を展開していくための経費として計上をいたしたところでございます。

28・29ページをご覧ください。

2項1目、市町村審査会費につきましては、例年とほぼ同様の事務内容でございまして、老人ホームへの入所調整や審査会の運営に必要な経費をお願いするものでございます。

2目、相談支援事業費につきましては、平成30年度から取り組む地域生活支援拠点整備事業に要する経費及び相談支援事業の実施に必要な経費をお願いするものでございます。

3目、飯田下伊那診療情報連携システム事業費は、飯田下伊那診療情報連携システム、通称 ism-Link のデータサーバーの維持及びシステム使用に関わる経費及び ism-Link 関連のウェブサイト作成委託等の費用を計上してございます。

4目、看護師等確保対策事業費のうち、細々目01は、看護師等確保対策のために今年度創設をいたしました奨学金制度に伴う貸付金、継続10名分、新規5名分のほか、制度の運用に要するものでございまして、財源は新たに創設をされました看護師等確保対策推進基金からの繰入金などでございます。

30・31ページをご覧ください。

細々目02、看護師等確保対策推進基金積立金は、飯田医師会よりいただく寄附金、市町村負担金を積み立てたいとするものでございます。

その他の民生費に係る財源につきましては、市町村負担金及び一般財源でございます。

続いて、衛生費でございます。

4款1項1目、ごみ中間処理施設清掃総務費の人件費は、職員の給料、手当等でございます。

一般管理費は、臨時職員の賃金、施設管理の委託料、事務経費が主な内容でございます。

財源は、市町村負担金、財産収入、諸収入及び一般財源でございます。

32・33ページをご覧ください。

3目、ごみ中間処理施設ごみ処理費は、稲葉クリーンセンターにおけるごみ償却処理に要する経費でございます。

委託料の施設運転維持管理業務委託料は、委託業者との長期包括委託契約を締結することにより、経費の総額の低減と負担の平準化を図っているものでございます。

財源は使用料、手数料及び市町村負担金でございます。

32ページ下段から34・35ページをご覧ください。

4目、飯田竜水園清掃総務費の人件費につきましては、飯田竜水園職員の給料、手当でございます。一般管理費は、臨時職員の賃金、事務的経費が主なものでございます。財源は、分担金、負担金、財産収入、諸収入及び一般財源でございます。

36・37ページをご覧ください。

6目、飯田竜水園し尿処理費は、飯田竜水園のし尿処理に係る経費でございます。し尿搬入量は一般のし尿が減少する一方で、合併浄化槽のほうでは若干増加をしておるものの搬入量全体では若干減少の状況となっております。

し尿処理費の主なものは、処理薬剤関係費、電気料、施設保守点検委託料、汚泥処分委託料等でございます。

工事請負費は、施設の改修工事として計装設備、高圧受電設備の更新を行いたいとするものでございます。

財源は、使用料、手数料及び市町村負担金でございます。

7目、リサイクルセンター運営管理事業費につきましては、旧桐林クリーンセンターの隣にございますリサイクルセンターの運営管理に要する費用でございます。

財源は、使用料、手数料、諸収入、一般負担金及び一般財源でございます。

38・39ページをご覧ください。

6款、公債費の元金と利子でございますが、稲葉クリーンセンター整備に関わる償還金等でございます。

特別養護老人ホーム整備に係ります償還金につきましては、施設が市町村に移管された後も従来どおり所在市町村から負担金をいただき、広域連合から償還をすることとしているものでございます。

続きまして、歳入に戻ってご説明をさせていただきますので、10ページ、11ページをご覧ください。

1 款の分担金及び負担金につきましては、総務費、民生費、衛生費及び特養の公債費に関する市町村の負担金でございます。

総務費等につきましては、産業振興と人材育成の拠点整備、2 期工事で借り入れた起債償還分及び地域公共交通事業を広域振興基金特別会計から移管したことにより増額となっておりますが、衛生費につきましては、稲葉クリーンセンター整備負担金が大きく減額となっております。内訳につきましては、説明欄に記載のとおりでございます。

構成市町村別の金額につきましては、5 1 ページの附表 4 にも記載をしておりますので後ほどご確認をお願いいたします。

1 2 ・ 1 3 ページをご覧ください。

2 款 1 項 1 目の衛生使用料は、稲葉クリーンセンターと飯田竜水園のごみ、し尿受け入れに係る施設使用料でございます。

2 項 1 目の衛生手数料は、リサイクルセンターのリユース品取扱手数料でございます。

3 款の国庫支出金は、航空機システム共同研究講座コンソーシアム負担金及び(公財) 南信州・飯田産業センターが、当地域の産業振興の先導役である航空宇宙関連産業におきまして、販路開拓の人材確保及び航空機産業への理解を深める教育を推進するための機器等類につきましては、県と連携して申請をし、交付決定をされた地方創生推進交付金によるものでございます。

4 款の県支出金は、マーケティング戦略調査事業、民族芸能保存継承事業及び南信州移住促進事業に係る元気づくり支援金でございます。

5 款の財産収入は各基金の利子収入でございまして、該当基金へそれぞれ積み立てをさせていただくこととしております。

1 3 ページ下段から 1 4 ・ 1 5 ページをご覧ください。

6 款 1 項 1 目の民生費寄附金は、看護師等確保対策修学資金貸与制度に対する飯田医師会からの寄附金でございます。

2 目の総務費寄附金は、人材育成のための振興事業への寄附金でございまして、信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアムへの負担金支出の特定財源とするものでございます。

7 款の繰入金は、し尿処理施設整備に係る起債の償還及び看護師確保対策修学資金の財源とするために、基金から繰り入れを行うものでございます。

8 款の繰越金は、前年度からの純繰越金でございます。

9 款 1 項は、預金利子でございます。

9 款 2 項の雑入のうち、総務費等雑入は指定管理を行っております阿南学園に関する保険料と指定管理受託者からの負担金でございます。

衛生費雑入は、飯田竜水園の電柱敷地料及びリサイクルセンターの太陽光発電収入等でございます。

3 項 1 目の総務費貸付金元利収入は、民族芸能推進協議会及び南信州地域公共問題協議会に対し、国県の交付金が支出されるまでの間の事業費として貸し付けるものでございます。

10 款 1 項 3 目総務債は、産業振興と人材育成の拠点整備事業と 4 期工事に関して起債を行うものでございます。起債につきましては、4 ページの第 2 表地方債をご覧ください。

産業振興と人材育成の拠点整備事業に関しまして、地方債による対応を予定しております。

限度額は 1 億 5, 300 万円、起債の方法、利率、償還につきましては表に記載したとおりでございます。

続いて、附表についてご説明申し上げます。42 ページをご覧をいただきたいと思います。

42 ページから 46 ページに附表 1 といたしまして給与費明細書を、48・49 ページに附表 2 といたしまして債務負担行為に関する調書、50 ページに附表 3 といたしまして、地方債の現在高の見込みに関する調書、51 ページに附表 4 といたしまして、一般会計に関する市町村の負担金明細書を添付しております。

また、附表 4 につきましては、本日お配りをいたしました議案第 5～8 号を補足説明資料に A3 折り込みにおいて市町村の負担金に関する全会計の前年度との比較表もおつけしてございますのでご高覧いただければと思います。

説明は以上でございます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第 5 号につきまして、質疑はございませんか。

熊谷宗明君。

○20 番（熊谷宗明君） それでは 1 点お願い申し上げます。

歳出の 25 ページ、5 目の調査研究プロジェクト事業費の中の上段ですが、08

の広域観光リニアプロジェクト推進事業費の負担金1,200万、説明がありました。したがって広域観光リニアプロジェクトの推進事業負担ということで、(株)南信州観光公社の組織強化ということで地域振興室を設けていくということでございます。

このことについて、職員体制、それから人件費等についてお聞きをいたします。

○議長（清水 勇君） 塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） これは南信州振興公社から聞き取りをしたものでございますが、地域振興室、平成30年の4月に設置を予定しておるということでございまして、職員体制につきましては、専任の職員を2名配置をいたし、アドバイザーを1名お願いをする予定と伺っているところでございます。

事業展開につきましては、先ほど申し上げましたように、リニアを活用して南信州地域を旅の目的地とすることを1つ、新たな企画によるインバウンド、一般旅行者の拡大を目指すこと、そのために振興室としてさまざまな事業展開を図っていくための企画を行っていくというふうに伺っているところでございます。

○議長（清水 勇君） 熊谷宗明君。

○20番（熊谷宗明君） 内容についてはわかりました。

この4月から専任の職員を2名、アドバイザーを1名置くということですが、やはり観光に対して専門性を持った職員が適当と思われませんが、そういった方たちがもう上がってあるのか、また、差し支えがあったらどんな経歴の方が入れられるのか、差し支えなかったらお聞きしたいと思います。

○議長（清水 勇君） 高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） あくまでも南信州観光公社の人事のことでございまして、私どもで人事の中身まではまだお聞きをしているわけではございませんので、人員体制までのことでお聞きをしているまででございますのでよろしくお願いたします。

○議長（清水 勇君） 熊谷宗明君。

○20番（熊谷宗明君） はい、わかりました。

各14市町村どこにおいても観光という面で力を入れてきているところでございます。非常に観光公社において、この伊那谷バレー構想の中で観光を図っていくという、インバウンドを力を入れていくということは非常に良いことだと思います。

この14市町村それぞれの取り組みを、点と点の取り組みを線で結ぶような取り組み、連携というのがまず大事な点だと思いますので、その点をしっかりやっていただきたいと思います。

要望です。

以上で質問を終わります。

○議長（清水 勇君） 次に質疑ございませんか。

吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） 20ページ、21ページのところから次のページのところなんですけど、ここに利息の利子の積立金というのが…（聞き取れず）…あるんですが、この大学設置推進基金というものが現在どのくらいあって、この目的はどのような目的であるのかお聞きします。

○議長（清水 勇君） 暫時休憩とします。

休 憩 午後1時22分

再 開 午後1時23分

○議長（清水 勇君） 休憩を閉じ、説明を求めます。

高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） 大学設置推進基金でございますけれども、これはこの基金条例をつくりましたときに大学設置推進基金できておまして、この条例上、設置の目的は大学設置推進を図ることという目的の基金でございます。

で、平成28年度末のこの基金の残高で67万5千円でございます。

○議長（清水 勇君） 吉川秋利君。

○30番（吉川秋利君） わかりました。

ただ、もう大学設置というのは半ばあきらめたというか、大学院設置の方向に来ている中では、まあ将来的には見直しをしていく必要があるのかなあ、もう少し積み立てをする必要があるのかなあというふうには思いますが、もし所見あればお願いします。

○議長（清水 勇君） 高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） 午前中の一般質問での議論もございましたけれども、新しい大学院大学の設置に向けては、これからまさに新しいコンソーシアムをどうつくっていくかということはあるわけですし、今の航空機に関する講座のコンソーシアムは広域連合も一員として負担金を出しておりますけれども、これは基金ということではなくて、予算で執行いたしておりますので、今後については議員のご指摘も踏

まえて検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（清水 勇君） そのほかに質疑ございませんか。

福沢 清君。

○25番（福沢 清君） 29ページの相談支援事業費というのが3千万ほどあるんですけども、既に「まいさぼ飯田」ということでさまざまな相談事業をやっておるんですが、そのことと関連とか、それからそれのほかにこういう相談事業というのが必要なのか、そのことも含めてお聞きしたいと思います。

○議長（清水 勇君） 塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） 相談支援事業についてご質問をいただきました。

今、議員おっしゃったように、これまで相談支援事業として4つの事業を行っております。「まいさぼ飯田」を中心に、精神、身体、それから総合といったようなものを3つ、さらには障害児に関するものについて飯田「ひまわり」にお願いをしておいて、これで4つの事業を相談支援事業ということでお願いをしておるところでございますが。

平成30年4月から、地域支援拠点整備事業というのが県・国の指導のもとに始まったところでございます。これは「障害者を24時間体制でサポートをするように窓口を設置しなさい」ということで指示をいただきまして、この南信州圏域いたしましては、広域連合から委託料を「まいさぼ」に払いまして、そちらに24時間体制の相談窓口を置いていただくこととしたところでございます。

相談の内容につきましては、24時間体制で職員が障害者からの緊急の相談を受け付け、その振り分けをすること。さらにはその障害者の皆さんの体調を管理をすることで、どの地域にどういった方がおいでになるかというところを整理するというのが今年度の目的でございます。

委託料として520万円を計上をしたところでございますが、今年度スタートをして、1年間調査を行いつつ、24時間体制で障害を持たれる方からの相談に答えしていくというのが新年度新たに追加された事業でございます。

○議長（清水 勇君） 福沢 清君。

○25番（福沢 清君） そうすると、「まいさぼ」の機能を少し拡充して、障害者の方にも対応できる所を「まいさぼ」の中に置くというようなイメージでとらえたんですが、その場合にそれなりの専門の方というか、それについて詳しくわかる方も配置されるということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（清水 勇君） 塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） 新たに専門職のコーディネーターを1名配置をするということになっております。

○議長（清水 勇君） 福沢 清君。

○25番（福沢 清君） 事業の内容は理解しました。ぜひその趣旨にそってスムーズに行うように要請いたします。

以上で終わります。

○議長（清水 勇君） そのほかに質疑ございませんか。

熊谷英俊君。

○1番（熊谷英俊君） 1番熊谷です。

先ほど、松川町の熊谷議員さんが質疑されました25ページの広域観光リニアプロジェクト推進事業費ですけれども、まありニア新時代を見据えて極めて重要な事業かと私は思うわけでありますけれども、先ほど事務局長さんのご説明の中に、人事等で南信州観光公社のほうやることであるというふうなことで、何となくお金は出すが口は出さないイメージにもとらえてしまうような言い方をされておったのが気になるわけですし、もちろんお金を出す以上、口もしっかり出していただいて、まあ新年度から動くということになるかと思うので、現状まだ人事等は白紙かと思っておりますけれども、その人事についてもしっかりこちらの広域連合のほうでもしっかり一緒に手を携えてやっていっていただきたいと思うわけでありますが、どう思いますでしょうか。

○議長（清水 勇君） 高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） 先ほどの私の答え方が足りなかったかもしれませんが、南信州観光公社はここに集まっておられる14市町村全部が出資をしている株主でございます。

で、振興公社のほうの取締役会ですとかそういう部分できちんと人事が決まってくるので、私どもとしては、まだそこまでは承知をしておらないということでお答えをさせていただきましたけれども、この事業はしっかり進んでいくかどうかをチェックするのは私ども株主としての14市町村も含めて、そこはきちんと見ていく必要があるかなあと思っておりますので、ご指摘のとおりだというふうに思っております。

○議長（清水 勇君） 熊谷英俊君。

○1番（熊谷英俊君） 先日、建設・経済・産業検討委員会のほうで、この事業につきましてには私、委員ということでご説明いただいておりますが、そのときには見込み額が1,400万だったような気がするんですが、この金額の差についてはどのようになっているかご説明いただければと思います。

○議長（清水 勇君） 高田事務局長。

○事務局長（高田 修君） 観光公社のほうで想定をしております30年度の事業費は1,400万ということで、これはお示しをした資料のとおりでございます。

で、今回、広域連合として支援をする部分は1,200万ということでございまして、その差額といいますか、これは南信州地域振興局、県も商工観光課を中心にこの観光公社をどう支援をするかということで検討いただいております、そういう中でこの事業費の確保がされているということでご理解をいただきたいと思えます。

○議長（清水 勇君） そのほかに質疑ございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第5号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第5号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第6号 平成30年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計予算（案）

○議長（清水 勇君） 次に、議案第6号、平成30年度南信州広域連合南信州広域振興基金特別会計予算（案）を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） それでは、議案第6号、平成30年度南信州広域連合南信

州広域振興基金特別会計予算（案）につきましてご説明申し上げます。

予算書の53ページをご覧ください。

本特別会計は、南信州広域振興基金の果実を活用し、広域的な地域振興事業を実施するものでございます。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額をそれぞれ400万円と定めたいとするものでございます。

歳出からご説明申し上げますので、64・65ページをご覧ください。

1款1項1目、広域振興事業の細々目01広域振興事業費は、当該特別会計の総務費的な経費でございます。旅費、需用費など共通経費等のほか、関係団体への負担金を計上をしたところでございます。

負担金の内、地域課題調査研究事業負担金は、愛知大学との協定によりまして実施をしております調査研究の取り組みに関する負担金でございます。

細々目03の地域情報発信事業費は、観光ポータルサイト「南信州ナビ」の管理運営に関する負担金などでございます。

細々目04の広域観光事業費は、地域の認知度とイメージ向上を図るための事業でございまして、中京圏や首都圏において観光PR等を行う南信州フェアに関する経費、南信州広域観光プロジェクトに要する経費、上伊那・木曾圏域との広域観光連携事業など、観光に関する広域的連携に要する経費などでございます。

なお、南信州フェアにつきましては、長野県の元気づくり支援金等の活用を図ってまいりたいと考えております。

また、地域公共交通事業費は、平成30年度より一般会計に移管をしたところでございます。財源は、県の元気づくり支援金及び諸収入として長野県観光協会からの交付金などでございます。

続いて、歳入をご説明申し上げます。予算書の62・63ページへお戻りください。

1款の県支出金は、南信州フェアの実施につきまして、長野県の元気づくり支援金の活用を計画しているものでございます。

2款、財産収入は、南信州広域振興基金の運用益金でございます。近年の低金利傾向によりまして、前年対比で減額とさせていただいております。

4款の繰越金は、前年度からの繰越金でございます。

5款の諸収入は、観光PRの実施につきまして、長野県観光協会からの交付金を

見込んだものでございます。

説明は以上でございます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第6号につきまして、質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑は終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第6号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第6号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第7号 平成30年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計予算（案）

○議長（清水 勇君） 次に、議案第7号、平成30年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計予算（案）を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

有賀飯田広域消防総務課長。

○総務課長（有賀達広君） それでは議案第7号についてご説明申し上げます。

予算書の67ページをご覧くださいと思います。

本案は、平成30年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計予算（案）でございまして、第1条では、歳入歳出の総額をそれぞれ22億3,236万円と定めたいとするものでございます。

第2条につきましては、一時借入金の最高額を1億円と定めたいとするものでございます。

予算の全体といたしましては、前年度から8,376万円の増額をお願いしたいと存じます。

それでは、歳出予算をご説明申し上げますので、80ページをご覧ください。

はじめに、1款1項1目、一般管理費でございますが、細目01人件費につきましては、職員218名分の給与・手当が主な内容でございます。

給与改定などもございますけれども、大きなところでは定年退職を迎える職員が今年度5名から来年度8名に増えることもございまして、給与費全体では7,100万円あまりの増額となっております。

財源につきましてご説明申し上げますが、県支出金につきましては火薬類の伍和地区に対する県特例処理事務の交付金でございます。

それから、繰入金につきましては、児童手当の広域連合一般会計からの繰り入れ及び退職手当のために基金を繰り入れるものでございます。

諸収入には、中央自動車道における救急業務に対する支弁金及び市町村への職員派遣に関する受託収入、長野県消防学校の教官として職員派遣に係る事務受託収入を見込んでございます。

続きまして、細目10一般管理費でございますけれども、そのうち旅費につきましては、職員の資質向上と資格習得のために各種研修にかけるものが主なものでございまして、総務省消防庁1名、長野県消防学校39名、救急救命士養成研修を2名のほか派遣を予定してございます。

消防学校初任科につきましては、新規採用職員の派遣につきまして、本年度5名から来年度7名に増えることもあり、旅費総額では35万余となっております。

続きまして需用費につきましては、消耗品費、光熱水費が主なものでございまして、このうち修繕料では、ホース乾燥棟の修繕、空調設備の修繕、照明設備の修繕等を予定してございます。

続きまして、委託料につきましては81ページの下段から83ページ中段までに掲載をしてございますが、大きなところでは消防無線指令施設など消防施設等の保守点検業務の委託が主なものでございまして、新たな事業といたしましては81ページ下段にございますように、築37年を超えている高森消防署の庁舎のことにつきまして、具体的に研究をするため専門機関による消防力適正配置調査業務委託を予定してございます。

83ページの下に、中ほど下に掲載してございます施設改修工事費につきましては、各消防庁舎施設について老朽化防止対策のため改修工事を予定してございます。

備品購入費でございますが、業務用パソコン9台の更新を行いたいと思います。

続きまして、負担金補助金及び交付金につきましては、消防学校入校経費負担金、

救急救命士養成研修料の負担金などがございます。

また、85ページに記載してございますが、飯伊地区メディカルコントロール分科会負担金につきましては、救急隊が行う救急救命処置に対する医師による事後検証及び指導によって、職員の知識・技能の向上を図っておりまして、その負担金でございます。

この欄の財源説明でございますけれども、一般管理費に係る財源の内訳は、使用料、手数料につきましては、消防本部庁舎使用料及び危険物火薬類の許認可事務の手数料でございます。

続きまして、85ページの細目11・12についてご説明申し上げますが、基金の積立金でございますけれども、その内、退職手当積立基金の積み立てにつきましては、1名当たり50万円218名分を見込んでございます。

この欄の財源内訳でございますけれども、基金の利子のほか諸収入といたしまして広域連合の事務局へ派遣しております1名の退職手当基金の積立分を収入として見込んでございます。

続きまして、2目の常備消防費についてご説明申し上げます。

はじめに、需用費の消耗品、燃料費、修繕料、それから役務費の手数料、保険料につきましては、消防活動に必要な消耗品の購入、消防車両の点検整備など維持管理に係る費用でございます。

備品購入費につきましては、空気呼吸器、空気ボンベ、それから救助用のエアジャッキの更新のほか、夜間照明機器の整備、それから救急隊と病院医師との画像による効果的な情報共有体制の更新のためiPadの導入を進めております。

財源説明につきましては、すべて一般財源でございます。

続きまして、3目の消防施設費でございますけれども、このうち施設整備工事費といたしましては、指令施設の無停電装置の改修工事、Jアラートの更新設置工事を予定するものでございます。

自動車購入費につきましては、老朽化が進んだ飯田消防署の高規格救急自動車の更新、そのほか緊急用人員搬送車、普通用の人員搬送車及び伊賀良消防署の広報連絡車のそれぞれ更新整備を行うものでございます。

財源でございますが、高規格救急自動車につきましては、緊急消防援助隊設備整備費補助金を見込んでございまして、そのほかにつきましては一般財源でございます。

2 款の公債費につきましてご説明申し上げますが、この公債費は平成 24・25 年度デジタル無線併設整備の借り入れ及び平成 27 年度の県防災行政無線の更新工事の借り入れに係る地方債の元利償還でございます。

財源につきましては、交付税算入分負担金につきまして、先ほど地方債に係る交付税措置分でございます、事務手続き上、飯田市から一括して負担金としていただくものでございます。残りは一般財源でございます。

続いて、歳入についてご説明を申し上げますので、恐れ入りますが 76 ページのほうへお戻りください。

はじめに、1 款 1 項 1 目負担金につきましては、構成 14 市町村にお願いする負担金でございます、歳入全体のおよそ 85% となっております。なお、前年と同額とさせていただきたいと存じます。

負担金の割合につきましては、広域連合の規約により、構成市町村の前年度の地方交付税に関する消防費の基準財政需要額に応じてお願いしているものでございます。

78 ページにまいりまして、7 款の繰入金のうち、財政調整基金繰入金につきましては、来年度、起債償還にあたり償還に充当させていただきたいと存じます。

その他の項目につきましては、歳出の財源内訳の中で併せて説明させていただいたとおりでございます。

88 ページ以降になりますと、附表 1・2・3 をつけてございます。

附表 1 では、給与費明細書、附表 2 では、地方債の現在高見込みに関する調書、附表 3 につきましては市町村負担金額を掲載してございますので、それぞれご確認をお願いしたいと存じます。

以上、ご審議の上、ご決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第 7 号につきましては、質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第 7 号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(清水 勇君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第7号は、原案のとおり可決されました。

◇ 議案第8号 平成30年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計予算(案)

○議長(清水 勇君) 次に、議案第8号、平成30年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計予算(案)を議題といたします。

朗読を省略し、直ちに理事者側の説明を求めます。

田見飯田環境センター事務長。

○飯田環境センター事務長(田見 進君) それでは、平成30年度稲葉クリーンセンター特別会計予算を説明をいたします。予算書の95ページをお開きいただきたいと思います。

議案第8号、平成30年度南信州広域連合稲葉クリーンセンター特別会計予算(案)でございます。

歳入歳出予算でございますが、第1条で、歳入歳出の予算の総額をそれぞれ5,133万3千円としたいとしますものでございます。

内容につきましては、予算説明書の事項別明細書によりご説明をいたしますので、104ページ、105ページをお開きをいただきたいと思います。

はじめに、歳入からご説明を申し上げます。

1款1項2目の基金運用収入は、基金利子でございます。

4款1項1目の雑入は、電気事業におけます売電収入の見込み額でございます。

それでは続きまして、1枚おめくりいただきまして、106ページ、107ページをお開きいただきたいと思います。

歳出を説明いたします。

2款1項2目の積立金は、売電収入及び基金利子を基金へ積み立てるものでございます。

3款1項2目の利子は、発電施設整備工事費の一部に電気事業債を借り入れておりまして、これの利子の償還でございます。

以上でございます。

○議長（清水 勇君） 説明が終わりました。

議案第8号につきまして、ご質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、質疑を終結いたします。

討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） なければ、討論を終結いたします。

これより、議案第8号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（清水 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第8号は、原案のとおり可決されました。

（答弁の是正）

○議長（清水 勇君） ここで、答弁の是正の申し出がありましたので認めます。

塚平事務局次長。

○事務局次長（塚平 裕君） 先ほどの一般関係の当初予算で、福沢議員から質問をいただきました相談支援事業の受託先につきまして、不明瞭な回答をいたしましたので、ここで訂正をして、改めて委託先を申し上げたいと思います。

最初に申し上げました、障害者相談支援事業の内、身体、知的、精神、それから総合といった部分を委託をしている委託先は、「飯伊圏域障害者総合支援センターほっとすまいる」でございます。

それから、障害児の相談事業につきましては、飯田市の「子供発達支援センターひまわり」でございます。

それから、もう1点、4月から開始をいたします地域生活支援拠点整備事業の委託先も同様に「飯伊圏域障害者総合支援センターほっとすまいる」であります。訂正して直させていただきます。

よろしく願いいたします。

○議長（清水 勇君） 以上をもちまして、すべての日程を終了いたしました。

(広域連合長あいさつ)

○議長（清水 勇君） ここで、広域連合長から発言の申し出がありますので、これを認めます。

牧野広域連合長。

○広域連合長（牧野光朗君） それでは、私のほうから一言ごあいさつを申し上げます。

ただいまご提案申し上げました議案につきまして、議案どおりお認めをいただきましたこと改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

審議の過程でいただきましたご意見・ご要望につきましては、今後改めて参考にさせていただきたいと考えております。今後、広域連合として新しい年度に向けた準備を具体化してまいる所存であります。

さて、平成30年度は、「産業振興と人材育成の拠点」がグランドオープンを予定するなど、リニア時代に向けまして、当地域が目指す将来像であります「小さな世界都市」の実現に向けた重要な年になるととらえております。

持続可能な地域づくりが具体的に進展し、当地域と広域連合にとりまして実り多き年にしていくために引き続き先頭に立って全力を傾注してまいる所存でございます。

議会側の皆様方におかれましても、引き続きましてご理解ご支援のほどをよろしくお願い申し上げ、閉会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

閉 会

○議長（清水 勇君） これをもちまして、平成30年南信州広域連合議会第1回定例会を閉会といたします。

ご苦労様でした。

閉 会 午後1時50分

議員・事務局・説明員出席表

議 員 出 席 表

議席番号	氏 名	2月26日	議席番号	氏 名	2月26日
1	熊 谷 英 俊	○	18	宮 下 浩 二	○
2	下 平 豊 久	○	19	坂 本 勇 治	欠
3	川 野 孝 子	○	20	熊 谷 宗 明	○
4	小 池 豊	○	21	森 谷 岩 夫	○
5	下 岡 幸 正	○	22	熊 谷 泰 人	○
6	丸 本 清	○	23	湯 澤 啓 次	○
7	板 倉 幸 正	○	24	永 井 一 英	○
8	松 村 尚 重	○	25	福 沢 清	○
9	村 松 積	○	26	木 下 容 子	○
10	原 光 史	○	27	湊 猛	○
11	川 上 明 利	○	28	新 井 信 一 郎	○
12	高 坂 和 男	○	29	清 水 勇	○
13	熊 谷 義 文	○	30	吉 川 秋 利	○
14	勝 野 猶 美	○	31	木 下 克 志	○
15	栗 生 勝 由	欠	32	村 松 まり子	○
16	市 川 伸 幸	○	33	井 坪 隆	午後欠
17	大 島 正 光	○			

地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

No	役 職 名	市 町 村 名	氏 名
1	広域連合長	飯 田 市	牧 野 光 朗
2	副広域連合長	泰 阜 村	松 島 貞 治
3	松川町長	松 川 町	深 津 徹
4	高森町長	高 森 町	壬 生 照 玄
5	阿南町長（施設管理者）	阿 南 町	勝 野 一 成
6	阿智村長	阿 智 村	熊 谷 秀 樹
7	平谷村長	平 谷 村	小 池 正 充
8	根羽村長	根 羽 村	大久保 憲 一
9	下條村長	下 條 村	金 田 憲 治
10	売木村長	売 木 村	清 水 秀 樹
11	天竜村長	天 龍 村	永 嶺 誠 一
12	喬木村長	喬 木 村	市 瀬 直 史
13	豊丘村長	豊 丘 村	下 平 喜 隆
14	大鹿村長	大 鹿 村	柳 島 貞 康
15	副管理者	飯 田 市	佐 藤 健
16	監査委員		加 藤 良 一
17	監査委員		市 瀬 晴 康
18	監査委員事務局長		市 瀬 幸 希
19	会計管理者		清 水 美 沙 子
20	事務局長		高 田 修
21	事務局次長		塚 平 裕
22	消防長		関 島 弘 文
23	消防次長兼警防課長		松 川 浩
24	総務課長		有 賀 達 広
25	予防課長		山 口 健 治
26	警防課専門幹		木 下 春 樹
27	飯田消防署長		細 田 正 徳
28	伊賀良消防署長		大 蔵 豊
29	高森消防署長		高 橋 郁 夫
30	阿南消防署長		下 平 岳 秀
31	飯田環境センター事務長		田 見 進

本会議に職務のため出席した者

No	役 職 名	氏 名
	書記長（事務局次長補佐兼庶務係長）	加 藤 博 文
	事務局 庶務係	林 大 和
	事務局 次長補佐兼広域振興係長	秦 野 高 彦
	事務局 介護保険係長	秋 山 真 紀
	飯田環境センター事務長補佐兼庶務係長兼新焼却場施設整備専門主査	北 原 達 矢
	飯田環境センター 管理係長	窪 田 正 行
		市 瀬 賢 二
	町村会事務局長	牛久保 守

以上、会議の内容に相違なきことを認め、地方自治法第123条の規定によりここに署名する。

平成 年 月 日

南信州広域連合議会議長

会議録署名議員

会議録署名議員
